

第四 賠償及ヒ訴訟費用ヲ辨濟シ又ハ其義務ヲ免カシタル證書

第五 過去、現在ノ住所及生計ヲ記載スル書類

第三百二十六條 檢事ハ願人ノ品行其他必要ノ取調ヲ爲シ前條ノ書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ
檢事長ニ差出ス可シ

第三百二十七條 檢事長ハ更ニ必要ノ取調ヲ爲シ復權ノ願ニ關スル書類ニ意見書ヲ添ヘ之
ヲ司法大臣ニ差出ス可シ

第三百二十八條 司法大臣ハ復權ノ願ニ關スル書類ヲ檢閲シ之ニ意見書ヲ添ヘ速ニ上奏ス
可シ

第三百二十九條 救裁ニ因リ復權ノ願ヲ却下シタルトキハ司法大臣ヨリ其旨ヲ檢事長ニ通
知シ檢事長ヨリ願書ヲ差出シタル地方裁判所檢事ニ通知ス可シ。前項ノ場合ニ於テハ刑
法第六十三條ニ定メタル期間ノ半ヲ經過スルニ非サレハ更ニ其願ヲ爲スコトヲ得ス。更
ニ復權ノ願ヲ爲スニ付テモ亦前數條ノ規定ニ從フ

第三百三十條 復權ノ裁可アリタルトキハ司法大臣ヨリ其裁可狀ヲ檢事長ニ送致シ檢事長
ヨリ願書ヲ差出シタル地方裁判所檢事ニ送致ス可シ。檢事ハ裁可狀ノ謄本ヲ願人ニ下付
ス可シ。又刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ裁可狀ノ謄本ヲ送致シ其裁判所ニ於テハ之ヲ判
決ノ原本ニ記入ス可シ

第三章 特赦

第三百三十一條 特赦ハ刑ノ言渡確定シタル後何時ニテモ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢
事又ハ監獄署長ヨリ犯人ノ情狀ヲ具シ司法大臣ニ申立ルコトヲ得。監獄署長ヨリ特赦ノ
申立ヲ爲ストキハ檢事ヲ經由ス可シ但檢事ハ意見書ヲ添フ可シ。特赦ノ申立アリタルト
キハ司法大臣ヨリ其書類ニ意見書ヲ添ヘ上奏ス可シ

▲〔問題〕 大赦ト特赦ノ性質及ヒ其差異如何(刑法第六四條參照)

第三百三十二條 司法大臣ハ刑ノ言渡確定シタル後何時ニテモ特赦ノ申立ヲ爲スコトヲ
得。死刑ヲ除ク外特赦ノ申立アリト雖モ刑ノ執行ヲ停止セス

第三百三十三條 特赦ノ申立却下アリタルトキハ司法大臣ヨリ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所
ノ檢事ニ其旨ヲ通知ス可シ

第三百三十四條 特赦ノ裁可アリタルトキハ司法大臣ヨリ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢
事ニ特赦狀ヲ送致ス可シ此場合ニ於テハ第三百三十條ノ規定ニ從フ

附 則

第一條 此法律施行前ニ受理シタル豫審ノ故障及ヒ其故障ノ判決ニ對スル上告ハ之ヲ受理
シタル地方裁判所又ハ大審院ニ於テ抗告トシテ之ヲ裁判ス可シ

第二條 大審院ニ於テ既ニ受理シタル哀訴、裁判管轄ヲ定ムルノ訴及ヒ嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴ハ治罪法ノ手續ニ依リ大審院之ヲ裁判ス可シ

第三條 既ニ發シタル勾留狀、收監狀ハ此法律ニ定メタル勾留狀ノ効ヲ有ス

第四條 此法律ノ規定ニ依リ市町村長ノ爲ス可キ職務ハ市町村長ヲ置カサル地ニ在テハ其職務ヲ行フ吏員ニ屬ス

第五條 此法律ハ明治二十三年十一月一日ヨリ施行シ其日ヨリ治罪法ヲ廢ス

大審院判例
法曹會決議
諸法令對照

實用刑事訴訟法典 畢

實用刑事訴訟法典附錄

●司法警察官執務心得

第一編 總 則

- 第一條 司法警察官ハ犯罪ノ捜査ヲ爲シ現行犯罪ノ假豫審ヲ行フヲ以テ其職務トス
- 第二條 左ニ記載シタル官吏、公吏等ハ司法警察ノ職務ヲ行フニ付キ檢事ノ指揮ヲ受ク可キモノトス
- 一 警視、警部長、警部
 - 二 憲兵將校、下士
 - 三 島司
 - 四 郡長
 - 五 市町村長及ヒ之ヲ置カサル地ニ於テ其職務ヲ行フ吏員
 - 六 林務官
 - 七 北海道集治監ノ典獄
 - 八 海船ノ船長
- 第六以下ニ記載シタル者ハ各其主管ニ關スル犯罪ニ付キ司法警察ノ職務ヲ行フ。第三乃至第五ニ記載シタル者ハ急速ヲ要スル場合ヲ除ク外成ル可ク其處分ヲ第一第二ニ記載シタル者又ハ主管ノ者ニ讓ル可シ

第三條 警視總監、府知事、東京府知事、東京府知事ヲ除クハ各其管轄地内ニ於テ犯罪捜査ノ權ヲ有スト雖モ異常ノ場合ニ於テ之ヲ行フナ例ト

●司法警察官執務心得

ス此場合ニ於テモ成ル可ク其處分ヲ檢事ニ讓ル可シ

第四條 司法警察官ノ職務ハ晝夜ノ別ナク休暇ト雖モ之ヲ行フ可キモノトス

第五條 司法警察官ノ職務ヲ行フハ迅速ニシテ事機ヲ失ハサルコトヲ要ス

第六條 司法警察官ノ職務ヲ行フハ秘密ニシテ細大ノ事物ニ注目スルコトヲ要ス

第七條 司法警察官ノ職務ヲ行フハ能ク秘密ヲ守リ犯人逃走、罪證湮滅、人心動搖ノ弊ナカラシメ且被告人其他ノ者ノ名譽ヲ毀損スルコトナキヲ要ス

第八條 司法警察官ノ職務ヲ行フハ大事ニ嚴ニシテ小事ニ寛ナラサル可カラス
又濫ニ人ノ隱微ヲ計クコトナキヲ要ス

第九條 司法警察官ノ職務ヲ行フハ法律ニ於テ特ニ定メタル場合ノ外強制ヲ用フルコトヲ得ズ

第十條 司法警察官ハ職務時間外ト雖モ急速ヲ要スル事件アルトキハ成ル可ク其處分ヲ爲サ、ル可カラス

第十一條 司法警察官ハ専ラ奸惡ヲ摘發シ公害ヲ除クコトニ着眼ス可シ一概ニ犯罪ヲ檢舉スルコトノ多數ナルノミヲ以テ其職務ヲ盡スモノト爲ス可カラス

第十二條 奸惡ノ徒ハ巧ミニ法網ヲ脱スルコトヲ圖ルモノナレハ司法警察官タル者宜シク其犯情ヲ看破スルコトニ注意ス可シ

第十三條 司法警察官ハ搜查ヲ爲スニ付キ檢事ノ指揮ニ從フ可キハ勿論ナリト雖モ事毎ニ其指揮ヲ待ツ可キモノニ非ス故ニ犯罪アルニ當テハ直チニ搜查ニ着手セサル可カラス

第十四條 司法警察官、被告人又ハ被害者ト親屬者クハ故舊ナルトキハ嫌疑ヲ避クル爲メ成ル可ク其處分ヲ他ノ司法警

警察官ニ讓ル可シ

第十五條 司法警察官職務ヲ行フ場合ニ於テ其制服ヲ着用セサルトキハ司法警察官タルノ證據ヲ携帯ス可シ若シ請求スルモノアルトキハ之ヲ示ス可シ

第十六條 司法警察官職務ヲ行フニ際シ必要トスルトキハ警察署、憲兵屯營ニ照會シテ巡查憲兵上等兵ヲ使用スルコトヲ得但事機緊急ナルトキハ直チニ之ヲ使用スルコトヲ得

第十七條 司法警察官ハ各其行政上ノ管轄區域内ニ於テ職務ヲ行フテ例トス但假讓處分ヲ除ク外時宜ニ因リ他ノ管轄區域内ニ於テモ之ヲ行フコトヲ得

第十八條 司法警察官搜查ヲ爲スニ付テハ犯罪ノ性質場所及ヒ被告人ノ身分ニ付キ制限アルコトナシ

第十九條 司法警察官他ノ司法警察官ヨリ其管轄區域内ニ於テ取扱フ可キ事件ニ付キ補助ノ求メアルトキハ之ニ應ス可シ讓審判事ノ求メニ付テモ亦同シ

第二十條 司法警察官左ニ記載シタル犯罪アルコトヲ知リタルトキハ速ニ之ヲ檢事局ニ報告ス可シ

一 刑法第二編第一章第二章及第三章第一節ノ犯罪

二 高等官、華族、有位、帶勳者ノ禁錮以上刑ニ該ル可キ犯罪

三 外國人ノ犯罪及ヒ外國人ニ對シタル犯罪

四 重要ノ犯罪又ハ公衆ノ耳目ヲ惹ク可キ犯罪

第二十條 陸海軍軍人、軍屬ノ犯罪ニ付テハ陸海軍治罪法及其違警罪處分例ニ從ヒ處分ス可シ但歸休兵及豫備後備ノ軍籍ニ在リテ召集中ニ在ラサル者并ニ在官、現役又ハ召集中罪ヲ犯シ免官、免役者クハ解隊ノ後發覺シタル者ハ常人ノ

●司法警察官職務心得

例ニ依ル

○〔參照〕

陸軍治罪法

第四十二條 司法警察官現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタルトキハ假リニ訊問及ヒ檢證ノ處分ヲ爲シ調書ヲ作り陸軍警察官若クハ被告人所屬ノ長官隊長大隊區司令官監獄長衛兵司令ニ之ヲ送致ス可シ

第四十三條 豫審判事檢事司法警察官軍人ニ係ル重罪輕罪ノ告訴告發ヲ受ケタルトキハ陸軍檢察官若クハ被告人所屬ノ長官隊長大隊區司令官監獄長衛兵司令ニ之ヲ交付ス可シ

海軍治罪法

總則

第四十二條 憲兵ノ將校下士又ハ豫審判事檢事司法警察官軍人ニ係ル重罪輕罪ノ告訴告發ヲ受ケタルトキハ其事件ヲ海軍檢察官若クハ被告人ノ所屬長官ニ交付ス可シ

第四十九條 憲兵ノ將校下士又ハ司法警察官現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタルトキハ假リニ訊問及檢證分ヲ爲シ調書ヲ作り海軍檢察官ニ之ヲ送致ス可シ

陸軍軍人軍屬違警罪處分例

第一條 陸軍軍人軍屬ノ犯シタル違警罪ハ違警罪即決例ニ依リ憲兵部ニ於テ其處分ヲ爲シ憲兵設置ナキ地ニ於テハ警察署ニ於テ其處分ヲ爲ス可シ

陸軍軍人軍屬違警罪處分例

第一條 海軍軍人軍屬ノ犯シタル違警罪ハ違警罪即決例ニ依リ憲兵部ニ於テ其處分ヲ爲シ憲法設置ナキ地ニ於テハ警察署ニ於テ其處分ヲ爲ス可シ

第二十二條 外國公使館ニ關スル事件ニ付テハ明治七年太政官第百二十八號達ニ從ヒ處分ス可シ

○〔參照〕 明治七年太政官第百二十八號達

●司法警察規則附錄

外國公使館屬員ノ事

第一條 外國公使ハ我國憲法以テ保護スヘカラサル通義ナレハ是ヲ擴張スル時ハ其家族並ニ公使館屬員書記官隨員書記官ノ家族及書記官ノ僕隸等總テ公使館ノ名籍ニアル者及ヒ其家屋車馬迄モ同様ナリト思料スヘシ

第二條 內國人公使館又ハ公使ノ書記官ニ備ハレ公使館ノ名籍ニ在ル間ハ公使館ノ屬隸ト見做シ若シ事故アリテ逮捕セサルヲ得サルカ或ハ呼出シテ糾問セサルヲ得サル時ハ外務省ヲ歴テ公使館ヘ報知シ其唯諾ヲ待テテ後引出スヘシ尤モ其者ヲ處分スルハ公使ノ關係スルコトニアラス

第三條 內國人各公使館及書記官ニ備ハレ中ハ其公使又ハ代理ヨリ其者ノ名籍ヲ外務省ヘ届出外務省ハ其届書ヲ速ニ司法警察官吏ヘ送達シ置ヘシ警察官吏ハ常ニ其姓名ヲ簿記シ置ヘシ若シ途中ニテ或人ヲ引留其名籍ノ在ル所ヲ聞知ス時公使館ニ備ハレ中ト稱スル時其簿記ト校照シ尙相違ナキ時ハ一旦公使館迄同道シ照會ヲ遂ケタル後其處分ヲ施スヘシ若シ其姓名簿記中ニ在ラサル者ニテモ其本人決シテ相違ナキ旨ヲ述フル時ハ公使館ヘ同道シ右ノ如ク處置ス可シ。但シ重科ニテ捕縛セサルヲ得サル者ハ第六條ニ照シテ處分スヘシ

外國公使館ノ事

●司法警察官執務心得

第四條 外國公使館内へハ事故アリテ館主ヨリ請求スル時ノ外決シテ立入ルヘカラス若シ重科ヲ犯シタル罪人ト見留タル者奔逃シテ門内ニ匿入セシ等毫髪ノ間モ猶豫スヘカラサル時ハ其把門者ニ告ケ其館主ノ許可ヲ受テ後館内又ハ邸内ヲ搜索スヘシ

第五條 右公使館書記官ノ住宅内ニ在ル内外職員ハ勿論馬車家畜ノ未ニ至ル迄一切手ヲ觸ルヘカラス若シ職務上止ムヲ得ス手ヲ降スヘキ事故アラハ是ヲ外務省ニ打合セ而シテ其處分ヲ爲ス可シ

外國公使ノ屬員罪ヲ犯シ并犯罪ノ内國人公使館ニ住居スル時ノ事

第六條 外國公使館ノ屬員ナル外國人死傷或ハ剽盜放火強姦等目前ニ顯ハレタル罪ヲ公使館外ニテ現ニ行フヲ見及フカ或ハ現ニ見スト雖モ衆人ヨリ報告シ確證アリテ片時モ猶豫ナシカタク時ハ其人ヲ其場ニ引留置即刻公使館ヘ報知ノ上同館ヘ引渡シ又外務省ヘ報知シ是ヲ公使館ニ引渡セシ手續ヲ申ヘシ決シテ手續捕縛等ノ事アルヘカラス或ハ屬員ノ内國人ハ引留置即刻公使館ヘ報知シ改メテ彼ヨリ引渡ヲ受クルノ手續ヲ施シ又コレヲ外務省ニ申ヘシ第七條 犯罪ノ風聞アルカ或ハ他人ノ自狀ヨリ明了ニ其罪科ノ知レタル内國人現ニ公使館内ニ備ハレテ公使館ニ住居スルトキハ其館外周圍ノ各路ヲ遮斷シ而後外務省ヘ報知シ同館ヘ照會ヲ乞館主ニ引渡ヲ要求シ其人ヲ受取リテ後チ之ヲ捕縛ス可シ若シ館主之ヲ拒ムトキハ其旨ヲ外務省ヘ報告シテ其處分ヲ定ムヘシ

第二十三條 本邦ノ裁判權ニ屬セサル外國人ノ身體、家宅、物件ニ關スル處分ニ付テハ本則ヲ適用ス可カラズ

第二十四條 司法警察官ノ作ル可キ書類ニハ所屬官署ノ印ヲ用ヒ年月日場所ヲ記載シテ署名捺印シ毎葉ニ契印ス可シ若シ官署、公署ノ印ヲ用フルコト能ハサル場合ニ於テハ其事由ヲ記載ス可シ又書類ヲ作ルニハ文字ヲ改竄ス可カラズ若シ挿入、削除及ヒ欄外ノ記入ヲ爲ストキハ之ニ認印シ其字數ヲ記載ス可シ但削除ノ部分ハ讀ミ得可キ爲メ其字跡ヲ存

ス可シ凡テ書類ハ文飾ヲ用ヒス簡明平易ニシテ事實ヲ失ハサルコトヲ要ス

第二十五條 被告人、證人其他ノ者ノ署名捺印スルコト能ハサルトキ又ハ氏名ヲ代書シ本人ヲシテ捺印者クハ捺印セシメタルトキハ其旨ヲ附記ス可シ

第二編 捜査

第二十六條 捜査ハ犯罪ノ證據及ヒ犯人ヲ檢査シ公訴ノ提起及ヒ實行ノ資料ヲ得ルヲ以テ目的トス

第一章 捜査著手

第二十七條 捜査ハ現行犯、告訴、告發、自首、新聞、風説其他見聞シタル事物ニ因リ犯罪アルコトヲ認知シ又犯罪アリト思料シタル場合ニ於テ著手ス可キモノトス

第二十八條 告訴告發ノアリタル場合ニ於テ告訴ヲ告發ト稱シ告發ヲ告訴ト稱シ其他何等ノ名稱ヲ以テスルモ之ヲ受ケ宜シク實ニ從テ處分ス可シ

第二十九條 告訴、告發ハ却下ス可キモノニ非ス其捜査ニ著手ス可キ事件ナルト否トニ拘ハラズ之ヲ受ケ相當ノ手續ヲ爲ス可シ

第三十條 書面ヲ以テ告訴、告發ヲ爲シタル場合ニ於テ其旨趣不明瞭ナルカ又ハ本人ノ意思ニ適合セサル可シト思料スルトキハ其取調ヲ爲シ圖書ヲ作ル可シ

第三十一條 口述ヲ以テ告訴、告發ヲ爲シタルトキハ隨意ニ其事件ヲ陳述セシメ圖書ヲ作ル可シ

第三十二條 告訴、告發ニ付キ増減變更ノ申立アリタルトキハ本人ヲシテ書面ヲ差出サシメ又ハ其圖書ヲ作ル可シ

第三十三條 告訴、告發ヲ受クルトキハ成ル可ク犯罪ノ性質、方法、日時、場所、被告人、證人ノ住所、氏名其他證據

●司法警察官職務心得

及ヒ事實參考ト爲ル可キコトヲ申立テシメ調書ヲ作ル可シ

第二十四條 被告人ヲ指名シテ告訴告發ヲ爲シタルトキハ本人ト被告人トノ關係如何ヲ察シ其誣罔ニ出ツルナキヤ否ニ注意ス可シ又告訴人ノ如キハ一時ノ忿怒ニ因リ過實ノ申立ヲ爲スコトナキヲ保シ難キヲ以テ成ル可ク失誤ナキコトニ注意セシム可シ

第三十五條 告訴人、告發人ニ於テ犯罪ヲ申告シタル方爲メ後難ヲ畏ル、摸樣アルトキハ其氏名ヲ顯サ、ルコトニ注意ス可シ

第三十六條 代人ノ告訴、告發ニ係ルトキハ委任狀ヲ差出サシム可シ。但法律上代理人告訴ヲ爲ストキハ此限リニ在ラズ

第三十七條 告訴、告發ノ取下アルモ其書面ハ返附スルモノニ非ス更ニ本人又ハ代人ノ署名捺印シタル取下申立書ヲ差出サシム可シ。口述ヲ以テ取下ヲ爲ストキハ其申立ニ付キ調書ヲ作ル可シ

第三十八條 官吏、公吏職務上ノ告發ハ檢事ニ爲ス可キモノナリト雖モ急速ヲ要スル事件ニ付キ一面司法警察官ニ報告アリタル場合ニ於テハ司法警察官ハ通常ノ手續ニ從ヒ搜查ニ著手ス可シ

第三十九條 犯罪ヲ自首スル者アリタルトキハ其陳述ヲ錄取ス可シ

第四十條 自首ハ悔悟又ハ減刑ノ企望ニ出ツルモノ多シト雖モ或ハ他人ノ罪ヲ免レシムル爲メ自ラ誣ヒ或ハ重キ罪ヲ避クルノ意ヲ以テ輕キ罪ヲ首出スル等ノ事ナシトセス宜シク其虛實及ヒ盡不盡ニ注意スヘシ

第四十一條 新聞紙上犯罪事件ヲ記載シ又ハ犯罪アリタルノ風説アルトキハ其出所、原因等ヲ取調ヘ其虛實ニ注意ス可シ

第四十二條 變死、創傷者アリタルトキ又ハ隱匿、埋藏物等ヲ發見シタルトキハ其犯罪ニ原因シタルヤ否ニ注意ス可シ

第二章 搜查處分

第四十三條 搜查處分ハ犯罪ノ原由、性質、方法、情狀、日時、場所、被害ノ形狀、多寡、被告人ノ氏名、年齢、職業出生ノ地、住所、本籍、身分、品行、前科ノ有無及ヒ證人ノ誰タルコト其他證據ト爲ル可キ一切ノ事物ヲ取調フルニ在リ。又被告人ノ利益ト爲ル可キ摸樣ニ注意ス可シ

第一節 證據及ヒ犯人ノ搜查

第四十四條 犯罪ノ場所又ハ證據物件所在ノ場所ニ就キ搜查ヲ必要トスル場合ニ於テハ其處分ヲ爲スコトヲ得但家屋、建造物又ハ船舶ニ係ルトキハ其戸主又ハ管守者ノ承諾ヲ得ルヲ要ス。前項ノ場合ニ於テハ其實況ヲ錄取ス可シ

第四十五條 犯罪ノ事實ヲ證明ス可キ物件ハ所有者又ハ保管者ノ承諾ヲ得テ之ヲ領置シ又ハ保全セシムルコトヲ得。領置シタル物件ハ其品目ヲ記載シ且目錄ヲ作り所有者又ハ保管者ニ渡ス可シ

第四十六條 前二條ノ處分官署公署ニ係ルトキハ其署ノ長又ハ之ニ代ハル可キ者ノ許諾ヲ得ルヲ要ス

第四十七條 搜查上必要トスルトキハ犯罪ノ事實ヲ知ル可シト原料スル者又ハ被告人ヲ呼出シ若クハ其所在ニ就キ陳述ヲ聽クコトヲ得但呼出ヲ爲スニハ書面又ハ口頭ヲ以テ報知ス可シ。又其承諾ヲ得テ犯所其他ノ場所ニ同行スルコトヲ得

第四十八條 前條ノ場合ニ於テ被告人其他ノ者ノ陳述ハ之ヲ錄取ス可シ。事實單簡ナルカ又ハ本人ノ希望アルトキハ書面ヲ差出サシムルモ妨ケナシ

第四十九條 搜查上鑑定ヲ必要トスルトキハ之ヲ爲サシムルコトヲ得其結果ハ鑑定書ニ記載シ之ヲ差出サシム可シ。第

●司法警察官職務心得

九十六條ノ手續ハ本條ニモ亦之ヲ準用ス可シ

第五十條 物件ノ原形ヲ變スルニ非サレハ鑑定ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ鑑定ヲ爲サシム可カラズ但廢敗其他ノ理由ニ因リ其物件ヲ保存ス可カラサルトキハ此限ニ在ラス

第五十一條 鑑定ノ爲メ死屍ノ解剖ヲ必要トスルトキハ檢事ノ許可ヲ受ク可シ其解剖ハ必要ナル部分ノ外之ヲ爲サシム可カラズ

○〔參照〕 明治十年第二十二號布告變死ニ係ル屍ヲ警察官吏検査スル時ニ於テ解剖ヲ行ハサレハ其致命ノ原由ヲ確知シ難キ旨醫師申立ル時ハ檢事 檢事派出ナキ地ノ許可ヲ受ケ其部分ヲ解剖検査セシムルコトヲ得

第二節 被告事件送致

第五十二條 被告事件ノ要領ヲ得タルトキハ送致ノ手續ヲ爲スコシ但送致後ト雖モ必要ナルトキハ仍ホ捜査ヲ爲スコシ被告事件ヲ送致スルトキハ證據物件及ヒ意見書ヲ添ヘ且參考ト爲ル可キ事項ヲ報告スコシ

第五十三條 重罪輕罪ノ捜査ヲ爲シタルトキハ速ニ其事件ヲ管轄裁判所檢事局ニ送致シ違警罪ニ付テハ即決ヲ爲スコキ官署ニ送致スコシ

第五十四條 本邦ノ裁判權ニ屬セサル外國人ノ犯罪ニ付テハ捜査ヲ爲シタル者ヨリ其事件ヲ其地ノ地方裁判所ノ檢事局ニ送致スコシ但急速ヲ要スルトキハ直チニ管轄領事廳所在地ノ地方裁判所ノ檢事局ニ送致スルコトヲ得此場合ニ於テハ速ニ其地ノ地方裁判所ノ檢事局ニ其旨ヲ報告スコシ

第三編 假豫審

第五十五條 司法警察官重罪輕罪ノ現行犯、準現行犯ニ付キ刑事訴訟法第四百七條ノ處分ヲ爲スナシ假豫審トス

第五十六條 現行犯ニ付テハ被告人ヲ逮捕シタルト否トナ問ハス假豫審處分ヲ爲スコトヲ得

第五十七條 準現行犯ニ付テハ成ル可ク被告人ヲ逮捕シタル後假豫審處分ヲ爲スコシ但數人共犯ノ場合ニ於テハ他ノ正犯、從犯未ダ捕ニ就カスト雖モ假豫審處分ヲ爲スコトヲ得。家宅内ノ犯罪ニ附キ戶主又ハ戶主ニ代ハル可キ者ノ請求ニ因リ檢證處分ヲ爲シタルトキハ被告人ヲ逮捕セスト雖モ其他ノ假豫審處分ヲ爲スコトヲ得

第五十八條 假豫審ニ著手シタル事件ト雖モ一タヒ其手續ヲ止メタルトキハ復タ假豫審處分ヲ爲スコトヲ得ス

第五十九條 假豫審ニ著手シタル場合ニ於テ豫審判事又ハ檢事其處分ヲ爲サントスルトキハ速ニ之ヲ讓ル可シ

第六十條 假豫審ニ於テハ犯罪ノ性質、方法、日時、場所其他犯罪ニ關スル證據ニ付キ取調ヲ爲スノミナラス被告人ノ利益ト爲ル可キ模様ニ付テモ亦其取調ヲ爲スコシ

第六十一條 假豫審ニ關スル書類ハ司法警察官自之ヲ作ル可シ但時宜ニ因リ巡查、憲兵上等兵等ナシテ筆記セシムルハ妨ケナシ

第六十二條 假豫審處分ヲ了シタルトキハ第五十二條以下ニ從ヒ被告事件送致ノ手續ヲ爲スコシ

第六十三條 假豫審ニ著手シタル後其取調ヲ繼續スコキモノニ非スト思料スルトキハ速ニ其手續ヲ止メ被告人ヲ逮捕シタル場合ニ於テハ直チニ之ヲ放免シ其旨ヲ檢事局ニ通知スコシ

第六十四條 罰金ノ刑ニ該ル可キ輕罪ニ付テハ刑事訴訟法第五十八條ノ處分ヲ除ク外現行犯ノ場合ト雖モ捜査處分ニ止ム可シ

第一章 檢證、搜索及物件差押

第六十五條 假豫審ニ付キ事實發見ノ爲メ必要トスルトキハ犯所若クハ其他ノ場所ニ臨ミ檢證ヲ爲スコシ

●司法警察官執務心得

第六十六條 假豫審ニ付テハ被告人又ハ其他ノ者ノ住居ニ臨檢シ搜索及ヒ物件差押ヲ爲スコトヲ得。被告人又ハ事實ヲ證明ス可キ物件ヲ所持スルノ疑アル者ノ身體及ヒ之ニ屬スル物件ニ就キ搜索ヲ爲スコトヲ得

第六十七條 前條ノ處分ヲ爲スニハ戶主又ハ本人ノ承諾ヲ待ツニ及ハスト雖モ成ル可ク處分前其旨ヲ告知シ且公力ヲ用フルコトヲ要ス

第六十八條 事實ヲ證明ス可キ物件ヲ所持スト雖モ藏匿ノ情ナキ者ハ成ル可ク住居身體又ハ物件ニ就キ搜索ヲ爲サス本人ニ通知シテ其物件ヲ差出サシム可シ

第六十九條 被告人ニ非サル者ノ住居身體又ハ物件ヲ搜查スルハ物件藏匿ノ疑アル場合ニ限ル可シ

第七十條 住居内ノ檢證、搜查、物件差押ニ付テハ戶主又ハ同居ノ親屬ノ立會アルヲ要ス若シ其在ラサルカ又ハ白痴、瘋癲、幼年者ナルトキハ市町村長又ハ其在ラサル地ニ於テハ市町村長ノ職務ヲ行フ吏員ヲシテ立會ハシム可シ

第七十一條 官署、公署ニ於テ檢證、搜查、物件差押ヲ爲ストキハ其署ノ長又ハ之ニ代ハル可キ者ノ立會アルコトヲ要ス

七十二條 檢證、搜索ノ場所ニ於テ發見シタル物件ニシテ其出所、性質、形狀、用方等ニ因リ被告人ノ入違ナキコト又ハ犯罪ノ模樣ヲ知ルニ足ル可シト思料シタルトキハ之ヲ差押フ可シ。官吏、公吏又ハ官吏、公吏タリシ者ノ所持スル物件ニシテ其職務上默秘ス可キ義務アル事情ニ關スルモノハ其承諾アルニ非サレハ差押ヲ爲スコトヲ得ス。醫師、藥商、釋婆、辯護士、辯護人、公證人、神職、僧侶其身分、職業ノ爲メ委託ヲ受ケタル物件ニシテ默秘ス可キ義務アル事情ニ關スルモノニ付テモ亦同シ

第七十三條 檢證、搜查、物件差押ヲ爲ス場合ニ於テ必要トスルトキハ其場所ニ於テ證人ノ陳述ヲ聽キ又ハ鑑定人ヲシ

テ鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得

第七十四條 住居内ノ檢證、搜索、物件差押ハ日出前、日没後之ヲ爲スコトヲ得ス但急速ヲ要スル場合ニ於テ戶主ノ承諾アリタルトキハ何時ニテモ檢證、搜索ヲ爲スコトヲ得

第七十五條 旅店、割烹店其他夜間ト雖モ衆人ノ出入スル場所ニ於テハ其公開時間内ニ限リ何時ニテモ檢證、搜索、物件差押ヲ爲スコトヲ得

第七十六條 住居内ニ於テ現ニ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ罪ヲ犯ス者アリテ急速ノ處分ヲ要スルトキハ何時ニテモ其現場ニ限リ檢證、搜索、物件差押ヲ爲スコトヲ得

第七十七條 住居内ノ檢證、搜索、物件差押ヲ爲スニハ成ル可ク穩當ノ方法ヲ用ヒ濫ニ門戶、牆壁、器具等ヲ損壞スルコトヲ要ス

又其處分ヲ終リタルトキハ書類、物件ノ紛失、毀損ヲ防ク爲メ相當ノ處置ヲ爲スコシ
第七十八條 檢證、搜查、物件差押中雜沓、喧嘩其他妨害ヲ爲ス者アルトキハ之ヲ制止ス可シ又何人ニ限ラス允許ヲ得スシテ其場所ニ出入スルコトヲ禁スルヲ得若シ其禁ヲ犯ス者アルトキハ之ヲ逐斥シ又ハ處分ヲ終ルマテ留置スルコトヲ得

第七十九條 檢證、搜索、物件差押ハ其處分ヲ終ルマテ停止セサルヲ要ス若シ已ムコトヲ得サル事故アリテ之ヲ停止スルトキハ證據湮滅ヲ豫防スル爲メ場所ノ周圍ヲ閉鎖シ又ハ看守者ヲ置クコトヲ得

第八十條 住居搜索ヲ爲スニハ其目的トスル所ノ書類物件ヲ藏匿スルコトヲ得ヘシト思料スル場所ニ限ル可シ

第八十一條 檢證、搜索、物件差押ヲ爲シタルトキハ其調查ヲ作ル可シ差押ヘタル物件ハ其品目ヲ調査ニ記載シ又ハ別ニ

●司法警察官職務心得

目錄ヲ作り立會人又ハ所有者ニ其抜書又ハ謄本ヲ渡スコシ

第八十二條 差押ヘタル物件ハ散佚、毀損ヲ防ク爲メ認印者クハ封印ヲ爲シ且其差押ヲ爲シタル年月日及ヒ件名ヲ記シ其物件ニ添付スコシ

又運搬シ難キ物件ニ係ルトキハ看守者ヲ附スル等便宜ノ處置ヲ爲スコシ

第八十三條 事實發見ノ爲メ必要トスルトキハ郵便、電信、鐵道ノ官署諸會社ニ其事由ヲ通知シ被告人又ハ關係人ヨリ候シ若クハ此等ノ者ニ對シ隠シタル書類、電報其他ノ物件ヲ受取ルコトヲ得但書類電報ハ檢事ノ許可ヲ得ルニ非サルハ開披ス可カラス。書類、電報、物件ヲ受取リタルトキハ其證書ヲ渡スコシ

第八十四條 差押ヘタル物件ト雖モ檢事局ニ送致スルニ及ハサルモノト認ムルトキハ所有者又ハ保管者ニ保全ヲ命ジ其受書ヲ差出サシム可シ

第二章 證人訊問

第八十五條 假豫審ニ付キ事實發見ノ爲メ必要トスルトキハ證人ヲ呼出シ又ハ其所在ニ就キ訊問ヲ爲スコトヲ得。證人檢證、搜索ノ場所ニ在ルトキハ直チニ訊問ヲ爲スコトヲ得

第八十六條 證人ニハ先ツ其氏名、年齢、身分、職業、住所及ヒ被告人又ハ被害者トノ關係如何ヲ訊問スコシ但宣誓ヲ爲サシム可カラス

第八十七條 證人ヲ訊問スルニハ成ル可ク解シ易キ言語ヲ用ヒ濫ニ法律ノ成語等ヲ用フ可カラス

第八十八條 證人ニハ自由ニ陳述セシム可シ其陳述ニ對シ辯駁、討論ヲ爲スコカラス若シ其陳述他岐ニ涉ルトキハ之ヲ止メ翻語アルトキハ質スコシ

第八十九條 證人ハ愛憎、畏懼ノ心ヲ生シ或ハ他ノ陳述ニ雷同スルノ恐アルヲ以テ成ル可ク被告人又ハ他ノ證人ト各別ニ訊問スコシ但對質ヲ要スルトキハ此限ニ在ラス

第九十條 證人ナシテ證據物件ニ付キ證明セシムルコトヲ要スルトキハ成ル可ク其物件ヲ示スコシ

第九十一條 證人ナシテ犯所若クハ其他ノ場所ニ就キ證明セシムルコトヲ要スルトキハ其場所ニ同行スルコトヲ得

第九十二條 證人壁ナルトキハ書面ヲ以テ問ヒ啞ナルトキハ書面ヲ以テ答ヘシム可シ雙者、啞者文字ヲ知ラサルトキハ通事ヲ命スコシ國語ニ通セサル者ニ付テモ亦同シ

第九十三條 證人ノ陳述ニ付テハ訊問ノ順序ヲ逐ヒ即時ニ其調書ヲ作ル可シ。證人其陳述ヲ變更増減センコトヲ申立タルトキハ更ニ其陳述ヲ聞キ調書ヲ作ル可シ

第三章 鑑定

第九十四條 假豫審ニ付キ犯罪ノ性質、方法等ヲ分明ナラシムル爲メ鑑定ヲ必要トスルトキハ醫師、穩婆、化學者其他學術、職業ニ因リ適當ノ識能ヲ有スル者ヲシテ鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得

第九十五條 第五十條第五十一條ノ規定ハ本章ニモ亦之ヲ適用ス

第九十六條 鑑定ハ鑑定人ノ自由ニ任セ其方法ニ付テハ干渉ス可カラスト雖モ成ル可ク現場ニ立會ヒ其結果ヲ得ルコトニ注意スコシ

第九十七條 鑑定ノ手續、時間及ヒ其結果ハ鑑定人ナシテ鑑定書ニ記載セシメ其結果分明ナラサルトキハ其推測スル所ヲ記載セシム可シ。數名ノ鑑定人ヲ命シタル場合ニ於テ各意見ヲ異ニスルトキハ各自ニ鑑定書ヲ作ラシメ又ハ一個ノ鑑定書ニ其意見ヲ記載セシム可シ。鑑定書ニハ鑑定セシ年月日ヲ記載シ署名捺印シ每葉ニ契印セシム可シ

●司法警察官執務心得

第九十八條 鑑定書ニ不明不備ノ點アルトキハ更ニ其説明書ヲ作ラシメ鑑定書ニ添置ク可シ

第四章 被告人逮捕

第九十九條 禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ現行犯、準現行犯ニシテ被告人現場ニ在ルトキハ直チニ之ヲ逮捕ス可シ但被告人ノ身分又ハ事件ノ模様ニ因リ其逮捕ヲ必要トセザルトキハ此限ニ在ラス

第一百條 現行犯、準現行犯ニ付キ被告人ヲ追跡スル場合ニ於テハ其追及シタル場所ノ如何ニ拘ハラス直チニ之ヲ逮捕スルコトヲ得但日出前、日没後ハ戸主又ハ之ニ代ハル可キ者ノ承諾アルニ非サレハ他ノ家宅内ニ侵入ス可カラス

第一百一條 被告人ヲ逮捕スルニハ成ル可ク適當ノ方法ヲ用フ可シ。被告人兇器ヲ持シ抗拒スル場合ニ於テ已ムコトヲ得ス劍銃等ヲ用フルモ決シテ自衛ノ區域ヲ踰ユ可カラス

第一百二條 假豫審ノ場合ニ於テハ現場ニ在ラサル被告人ニ對シ勾引狀ヲ發スルコトヲ得。被告人他ノ管轄地内ニ在ルトキハ其地ノ司法警察官ニ勾引狀ヲ送致シ其執行ヲ囑託ス可シ。若シ其事件急速ヲ要スルトキハ巡查、憲兵上等兵ヲシテ勾引狀ヲ帶行セシメ又ハ電報ヲ以テ逮捕ノ處分ヲ囑託スルコトヲ得其囑託ヲ受ケタル司法警察官ハ其名ヲ以テ勾引狀ヲ發ス可シ

第一百三條 勾引狀ノ執行ヲ受ケタル被告人ハ護送途中及ヒ引致シタル時ヨリ四十八時間内ハ留置場ニ入レ置クコトヲ得

第一百四條 勾引狀ヲ以テ引致シタル被告人ハ釋放ノ場合ヲ除ク外前條ノ期限内ニ檢事局ニ送致スルノ手續ヲ爲ス可シ。勾引狀ナクシテ被告人ヲ逮捕シタル場合ニ於テモ亦同シ

第一百五條 常人ニ於テ現行犯、準現行犯ノ被告人ヲ逮捕シ之ヲ引渡サントスルトキハ成ル可ク其便宜ヲ計リ速ニ之ヲ受取ル可シ

第一百六條 現行犯、準現行犯ニ付キ巡查、憲兵上等兵又ハ常人ヨリ被告人ヲ受取リタルトキハ逮捕ノ事由及ヒ申告ノ趣旨ニ付キ調書ヲ作ル可シ。逮捕ヲ爲シタル者ヨリ手續書ヲ差出シタルトキハ其相違ナキヤ否ヤヲ取調ヘ之ヲ調書ニ添置ク可シ

第一百七條 勾引狀ニハ被告事件、被告人ノ氏名、職業、住所及ヒ年月日時ヲ記載ス可シ其氏名分明ナラザルトキハ容貌、體格等ヲ明示ス可シ

第一百八條 勾引狀ハ巡查、憲兵上等兵ヲシテ之ヲ執行セシム可シ

第五章 被告人訊問

第一百九條 假豫審ニ於テハ取證ノ機ヲ失セス且被告人ノ利益ヲ損セサル爲メ先ツ被告人ヲ訊問ス可シ但檢證、搜索、物件差押及ヒ證人訊問ニ付キ急速ヲ要スル場合ハ此限ニ在ラス

第一百十條 被告人ニハ先ツ左ノ事項ヲ訊問ス可シ

- 一 氏名、年齢、身分、職業、住所、出生ノ地
- 二 有位又ハ帶勳者ナルヤ否
- 三 前科ノ有無若シ前科アリタルトキハ其罪名、刑名、裁判言渡ヲ爲シタル廳名及ヒ其年月日

第一百十一條 被告人ヲ訊問スルニハ穩和ヲ旨トシ且其年齢、身分、性質等ヲ斟酌シ一様ノ訊問ヲ爲ス可カラス

第一百十二條 訊問ヲ爲スニハ平易ノ語ヲ用ヒ濫ニ法律ノ成語等ヲ用フ可カラス又簡明ヲ旨トシ勉メテ疑似ニ涉ルコトヲ避ク可シ

第一百十三條 被告人ニハ自由ニ發言セシム可シト雖モ餘事ニ涉ラシメサルコトニ注意ス可シ

●司法警察官執務心得

第百十四條 訊問ハ一事項毎ニ其端ヲ更メ成ル可ク同時ニ數事項ヲ訊問ス可カラス

數罪俱發ノ場合ニ於テハ成ル可ク一罪ノ訊問ヲ終リタル後他罪ニ及フ可シ

第百十五條 數人共犯ノ場合ニ於テハ成ル可ク各別ニ訊問シ其通謀ヲ防ク可シ且數人ノ事實ヲ得可シト愚料スル者ヨリ訊問ヲ爲ス可シ

第百十六條 證據物件ハ時機ヲ計リ之ヲ被告人ニ示シ其辯解ヲ爲サシム可シ

第百十七條 事實發見ノ爲メ必用ナル場合ニ非サレハ被告人ヲシテ他ノ被告人又ハ證人ト對質セシム可カラス

第百十八條 第九十二條ハ被告人訊問ニ付テモ亦之ヲ適用ス可シ

第百十九條 被告人ノ舉動ハ事實發見ノ端緒ト爲ルコトアルニ因リ其言語氣色等ニ注意ス可シ

第百二十條 被告人ノ白狀アリト雖モ一概ニ事實ト爲ス可カラス其白狀ニ適應スル證據ノ有無ヲ取調フルコトニ注意ス可シ

第百二十一條 訊問ニ付テハ即時ニ其調書ヲ作り問答ノ始末及ヒ被告人ノ舉動等遺漏ナク記載ス可シ。第九十三條ノ手續ハ被告人訊問調書ニ付テモ亦之ヲ適用ス可シ

●逃亡犯罪人引渡條例(明治二十年八月勅令第四十二號)

第一條 本條例ニ於テ締約國ト稱スルハ既ニ帝國ト犯罪人引渡條約ヲ締結シ若クハ今後締結スル外國ヲ謂フ。引渡犯罪ト稱スルハ外國ト締結シタル犯罪人引渡條約ニ掲ケル犯罪ヲ謂フ。逃亡犯罪人ト稱スルハ締約國ノ管轄内ニ於テ犯シ

タル引渡犯罪ニ付告訴發テ受ケ若クハ有罪ノ宣告ヲ受ケタル帝國臣民外ノ人ニシテ帝國ノ管轄内ニ逃避シタル者又ハ逃避シタル嫌疑者クハ逃避セントスルノ嫌疑アル者ヲ謂フ但左ノ場合ニ於テハ帝國臣民ヲ包含ス

- 一 帝國ト請求國トノ犯罪人引渡條約ニ交互其臣民ノ引渡ヲ爲スヘキ條款アルトキ
- 二 犯罪人引渡條約ニ交互ノ注意ヲ以テ其臣民ノ引渡請求ニ應スルコトアルヘキ旨ノ條款アリ且請求國ニ於テ同様ノ場合ニハ自國ノ臣民ヲ引渡スヘキ旨ヲ申出テタルトキ

第二條 締約國ヨリ逃亡犯罪人ノ引渡請求アリ之カ引渡ノ目的ヲ以テ其手續ヲ爲ストキハ本條例ニ定ムル所ノ條款ニ據ルヘキモノトス

第三條 左ノ場合ニ於テハ逃亡犯罪人ヲ引渡スコトヲ得ス

- 一 引渡ノ請求ニ係ル者ノ所犯政事上ノ犯罪ナルトキ
- 二 引渡ノ請求ハ實際政事上ノ犯罪ニ付審問シ若クハ處刑セントスルノ目的ニ出タル旨ヲ本人ニ於テ證明シタルトキ

第四條 逃亡犯罪人其引渡請求ニ係ル犯罪外ノ事件ニ付帝國内ニ於テ告訴發テ受ケ又ハ處刑中ナルトキハ無罪又ハ刑期滿限若クハ其他ノ事由ニ因リ釋放セラレタル後ニアラサレハ之ヲ引渡スコトヲ得ス

第五條 帝國ト外國ト犯罪人引渡條約ヲ締結シタルトキハ逃亡犯罪人ノ犯事其締約以前ニ係ルト雖モ該締約國ノ請求ニ應シ其引渡ヲ爲スコトアルヘシ

第六條 引渡犯罪ニ付帝國裁判所ニ於テ締約裁判所ト均シク裁判權ヲ有スト雖モ若シ司法大臣ノ意見ニ於テ其審判ヲ便ナラシメンカ爲メ逃亡犯罪人ノ引渡ヲ可トスルトキハ之ヲ引渡スコトアルヘシ

●逃亡犯罪人引渡條例

第七條 本條例ニ據リ發シタル總テノ逮捕狀ハ帝國内何レノ地ニ於テモ効力アルモノトス

第八條 一逃亡犯罪人ヲ二國以上ノ締約國ヨリ各其國ニ於テ犯シタル罪ノ爲メ引渡請求ヲ爲シタルトキハ最初請求ヲ爲シタル國ニ之ヲ引渡スヘシ但其請求ヲ爲シタル締約國間ニ特別ノ約束若クハ協議アル場合ハ此限ニ在ラス

第九條 司法大臣ハ外務大臣ノ請求ニ依リ一名若クハ二名以上ノ上席檢事ニ命シ逃亡犯罪人ヲ假ニ逮捕スル爲メ附録第一號書式ニ依リ假逮捕狀ヲ發セシムルコトヲ得。外務大臣ハ締約國ヨリ相當ノ順序ヲ經由シ書面又ハ電信ヲ以テ逃亡犯罪人ヲ逮捕スル爲メ既ニ逮捕狀ヲ發シタルコトノ通知ト其引渡ハ正式ニ依リ請求スヘキ旨ノ保證トニ接シタル後ニ限リ本條ノ請求ヲ爲スヘシ

第十條 假逮捕狀ニ據リ逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル場合ニ於テ二月ヲ過キサル相當ノ期限内ニ其引渡ノ請求ナキトキハ之ヲ釋放スヘシ但此場合ニ於テ逮捕シタル者ヲ釋放スルモ再ヒ之ヲ逮捕シ及引渡スコトヲ妨ケサルモノトス。假逮捕狀ニ據リ逮捕シタル者ノ引渡請求アリタルトキハ更ニ附録第二號書式ノ逮捕狀ヲ發シ假逮捕狀ト交換スヘシ

第十一條 第九條ニ定メタル例外ノ場合ヲ除クノ外ハ引渡請求ヲ爲シタル國トノ條約ニ定メタル相當ノ順序ヲ經由シ左ノ書類ヲ添ヘ引渡ノ請求アリタル後ニアラサレハ何人ヲモ引渡ノ目的ヲ以テ逮捕スルコトヲ得ス

一 告訴發受ケタル者ノ場合ニ於テハ其所犯ニ付訴アリタル國ノ相當官吏ニ於テ發シタル認メ得ヘキ逮捕狀ノ公寫及該逮捕狀ヲ發スルノ根據ト爲リタル口供書若クハ陳述書ノ公寫

二 有罪ノ宣告ヲ受ケタル者ノ場合ニ於テハ其宣告ヲ爲シタル裁判所ノ證印アル宣告書ノ寫

第十二條 外務大臣引渡請求書ニ接シ犯罪人引渡條約ノ條款ニ適合シタリト思量スルトキハ該請求書ニ其關係書類ヲ添ヘ之ヲ司法大臣ニ送付スヘシ。司法大臣本條ノ請求ニ接シ妥當ノ事由アル請求ト思量スルトキハ逃亡犯罪人ノ所在又

ハ其到着スヘシト認ムル地ノ上席檢事ニ命シ逮捕狀ヲ發セシムヘシ

第十三條 上席檢事前條ニ掲ケタル司法大臣ノ命令ニ接シタルトキハ附録第二號書式ニ依リ逮捕狀ヲ發スヘシ

第十四條 請求ニ係ル逃亡犯罪人ヲ逮捕シ若クハ假逮捕シタルトキハ其逮捕狀ヲ發シタル上席檢事又ハ之ヲ逮捕シタル地ノ上席檢事ニ引渡スヘシ。上席檢事ハ逃亡犯罪人逮捕ノ願末ヲ直ニ司法大臣ニ具申スヘシ。司法大臣上席檢事ノ具申ニ接シタルトキ引渡請求書アレハ其寫及附屬書類ヲ速ニ該檢事ニ送付スヘシ但被告人ヲ釋放スヘキノ命令ヲ發スルトキハ此手續ヲ爲スニ及ハス

第十五條 告訴發受ケタル者ノ場合ニ於テハ上席檢事ハ速ニ之ヲ訊問シ其人違ナキコト及引渡請求書ニ附屬セル書類ノ確實公正ナルコトヲ認定スヘシ但上席檢事該書類ノミニテハ證據不充分ナリト認ムルトキハ仍ホ被告人ノ犯罪ニ對スル證據ヲ取ルコトヲ得。有罪ノ宣告ヲ受ケタル者ノ場合ニ於テハ上席檢事ハ速ニ之ヲ訊問シ其人違ナキコト及其引渡ヲ請求シタル締約國ノ相當裁判所ニ於テ宣告ヲ爲シタルノ確實ナルコトヲ認定スヘシ

第十六條 上席檢事被告人ノ訊問ヲ終了シタルトキハ訊問書ニ其處分方ニ關スル意見書ヲ添ヘ之ヲ司法大臣ニ具申スヘシ但上席檢事ハ之ト共ニ引渡請求書寫及附屬書類ヲ返却スヘシ。司法大臣該檢事ノ具申ニ接シタルトキハ附録第三號書式ニ依リ引渡狀ヲ發スルカ又ハ逮捕シタル者ヲ釋放スヘシ

第十七條 逃亡犯罪人ハ逮捕狀ニ據リ逮捕セラレタル後二月以上留置セラレコトナカルヘシ

第十八條 司法大臣ハ左ノ場合ニ限リ引渡狀ヲ發スルコトヲ得
一 引渡犯罪ニ付告訴發受ケタル者ノ場合ニ於テハ若シ其告訴發受ケタル罪ヲ帝國内ニ於テ犯シタルモノトセハ帝國ノ法律ニ據リ被告人ヲ審判ニ付スルモ充分ナル犯罪ノ證據アリト認メタルトキ

● 逃亡犯罪人引渡條例

二 有罪ノ宣告ヲ受ケタルモノ、場合ニ於テハ相當裁判所ニ於テ其宣告ヲ爲シタルコトヲ認メタルトキ

第十九條 開席裁判ニ由リ有罪ノ宣告ヲ受ケタル者ハ其引渡ヲ請求シタル締約國トノ間ニ特別ノ約款アルニ非サレハ本

條例ニ於テハ之ヲ告訴審判ヲ受ケタル者ト爲シ有罪ノ宣告ヲ受ケタル者ト認メス

第二十條 逮捕シタル者ヲ釋放シ又ハ其引渡ノ爲メ引渡狀ヲ發シタルトキハ司法大臣ハ引渡請求書及附屬書類ニ其執行

シタル手續及其理由ノ略記ヲ添ヘ之ヲ外務大臣ニ送付スヘシ

第二十一條 引渡狀ヲ發シタル後何人ヲモ一月以上留置スルコトヲ得ス但此期限内ニ之ヲ帝國外ニ引取ラサルトキハ請

求國相當官吏ニ於テ正當ノ事由ヲ示スニアラサレハ釋放スヘシ

第二十二條 逃亡犯罪人ヲ引渡ストキハ其逮捕ノ際差押ヘタル本人ノ携帶品ハ正當ノ理由アルニアラサレハ其引渡ノ節

本人ト共ニ悉ク之ヲ交付スヘシ

第二十三條 司法大臣ハ外務大臣ノ請求ニ依リ一外國ヨリ他ノ外國ニ引渡シタル者ノ帝國內海陸ノ通行ヲ認可スルコト

ヲ得。本條ノ請求ハ引渡ヲ受クヘキ國ノ政府ヨリ引渡狀ノ公寫ヲ添ヘ相當ノ順序ヲ經由シタル照會書ヲ外務大臣ニ於

テ受領シタルトキニ限ル但帝國ト請求國トノ間ニ特別ノ約款ナキトキハ該照會書ノ外仍ホ請求國ノ政府ニ於テ之ト同

一ノ場合即チ第三國ヨリ帝國ニ逃亡犯罪人ヲ引渡シタル場合ニ該請求國内海陸ノ通行ヲ均シク認可スヘキトノ保證ヲ

爲シタルトキニ限ル

(附錄署ス)

實用刑事訴訟法典附錄 畢

實用刑事訴訟法典第二附錄

第一陸軍治罪法之部

脫陸軍治罪法ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十一年十月十九日

内閣總理大臣 伯爵 黒田 清隆
陸軍大臣 伯爵 大山 巖

〔法律第二一號〕

陸軍治罪法左ノ通改正シ明治二十二年一月一日ヨリ施行ス

陸軍治罪法

第一章 總則

第一條 軍人ノ犯シタル重罪輕罪ノ審判及ヒ違警罪ノ正式裁判ハ軍法會議ニ於テ之ヲ爲ス。陸軍官署若クハ軍人ノ損害ニ係ル本案附帶ノ私訴アルトキハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第二條 軍法會議ハ傍聽ヲ許サス但其裁判宣告ヲ爲ストキハ軍人ニ限り之ヲ許ス

第三條 軍人ト稱スルハ陸軍刑法第三條第九條ニ記載シタル者ヲ謂フ。海軍軍人ト稱スルハ海軍刑法第五十條第五十一條ニ記載シタル者ヲ謂フ

●陸軍治罪法

第四條 長官ト稱スルハ軍團長師團長軍法會議ヲ管轄スル旅團長及ヒ合圍ノ地ノ司令官ヲ謂フ

第五條 親屬ト稱スルハ普通刑法第百十四條第百十五條ニ記載シタル者ヲ謂フ

第六條 普通治罪法第九條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條第十八條第三十九條

第百條第百一條第百三十三條第三項第百五十六條第二百六十一條第一項ハ此治罪法ニ於テ之ヲ適用ス

第七條 歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者ハ召集中ノ外軍人ノ例ニ依ルコトヲ得ス

第八條 軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ於テハ長官審判ノ手續ヲ省略スルコトヲ得

第二章 軍法會議ノ構成

第九條 各師管ニハ軍法會議一箇若クハ數箇ヲ設ク。東京ニ高等軍法會議一箇ヲ設ク。軍中ニ於テハ軍團師團混成旅團ニ軍法會議ヲ設ク合圍ノ地ニモ亦軍法會議ヲ設ク

第十條 軍法會議ハ判士長判士理事若クハ理事試補及ヒ錄事ヲ以テ構成ス

第十一條 判士長判士ハ高等軍法會議ニ於テハ第一表ニ據リ他ノ軍法會議ニ於テハ第二表ニ據リ將校ヲ以テ之ニ充ツ。軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ於テハ判士二名ヲ減スルコトヲ得

第一表

判士長	判士	被	告	人
佐官 一名	尉官 四名	陸海軍下士以下ノ軍人		
佐官 一名	大尉若クハ中尉尉 二名	陸軍少尉及ヒ同等ノ陸海軍人並ニ准士官		
佐官 一名	中尉尉 二名	陸軍中尉及ヒ同等ノ陸海軍人		
大佐若クハ中佐一名	大少尉尉 二名	陸軍大尉及ヒ同等ノ陸海軍人		
大佐 一名	少中佐佐 二名	陸軍少佐及ヒ同等ノ陸海軍人		
少將 一名	中大佐佐 二名	陸軍中佐及ヒ同等ノ陸海軍人		
中將 一名	大少佐佐 二名	陸軍大佐及ヒ同等ノ陸海軍人		
中將 一名	少中將將 二名	陸軍少將及ヒ同等ノ陸海軍人		
大將 一名	中大將將 三名	陸軍中將及ヒ同等ノ陸海軍人		
大將 一名	中大將將 二名	陸海軍大將		

第二表

判士長	判士	被告	人
佐官一名	尉官四名	陸海軍下士以下ノ軍人	
佐官一名	大尉若クハ中尉 少尉 二名	陸軍少尉及ヒ同等ノ陸海軍人並ニ准士官	
佐官一名	中大尉 二名	陸軍中尉及ヒ同等ノ陸海軍人	
大佐若クハ中佐一名	大少尉 二名	陸軍大尉及ヒ同等ノ陸海軍人	
大佐一名	少中佐 二名	陸軍少佐及ヒ同等ノ陸海軍人	
少將一名	中大佐 二名	陸軍中佐及ヒ同等ノ陸海軍人	
中將一名	大少佐將 二名	陸軍大佐及ヒ同等ノ陸海軍人	

第十二條 將官ヲ以テ判士長判士ト爲ストキハ陸軍大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ勅命ス。佐官ヲ以テ判士長判士ト爲シ尉官ヲ以テ判士ト爲ストキハ高等軍法會議ニ於テハ陸軍大臣之ヲ命シ師管旅管ノ軍法會議ニ於テハ師團長其部下中ヨリ之ヲ命ス。師管旅管ニ於テ部下ニ非サル者ヲ以テ判士長判士ト爲ストキハ師團長ノ上申ニ依リ陸軍大臣之ヲ命ス

第十三條 軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ於テハ長官其部下ノ將校中ヨリ判士長判士ヲ命ス

第十四條 軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ於テハ長官專任判士ヲ命スルコトヲ得又部下ノ下士ヲシテ錄事ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得。合圍ノ地ニ於テハ長官其地所在ノ高等官ヲ以テ判士若クハ理事ニ充テ判任官ヲ以テ錄事ニ充ルコトヲ得

第十五條 判士長判士理事左ニ記載シタル者ナルトキハ其審判ニ從事スルコトヲ得

- 一 被告人被害者及其配偶者ノ親屬
- 二 被告人被害者ノ後見人
- 三 告發人被害者及ヒ證據ヲ陳述シタル者

第十六條 原裁判ニ從事シタル判士長判士理事ハ再議及ヒ再審ノ裁判ニ列スルコトヲ得ス但闕席裁判ニ對スル再審ニ於テハ此限ニ在ラス

第十七條 第十二條第三項ノ場合ニ於テ陸軍大臣ハ判士長判士ヲ命セシテ被告人ヲ他ノ師管旅管ノ軍法會議ニ移シテ其審判ヲ爲サシムルコトヲ得

第三章 軍法會議ノ權限

第十八條 師管旅管ノ軍法會議ハ其師管旅管ノ所管地方ヲ以テ管轄ト爲シ所屬軍人ノ犯罪ヲ審判ス

第十九條 軍人管轄地外ニ於テ罪ヲ犯シタルトキハ其他ノ軍法會議ニ於テ之ヲ審判スルコトヲ得

第二十條 高等軍法會議ハ將官若クハ其同等軍人ノ犯罪ヲ審判シ及ヒ再審ノ審判ヲ爲ス但

他ノ軍法會議ニ於テ爲シタル闕席裁判ニ對スル再審ハ此限ニ在ラス

第二十一條 軍團師團混成旅團ノ軍法會議ハ其團所屬佐官以下ノ軍人ノ犯罪ヲ審判ス

第二十二條 合團ノ地ノ軍法會議ハ總テ其地所在佐官以下ノ軍人ノ犯罪ヲ審判ス

第二十三條 臨戰若クハ合團ノ地ノ軍法會議ニ於テハ從軍常人ノ犯罪ヲ審判シ又何人ト雖

モ陸軍刑法ヲ以テ論スヘキ罪ヲ犯シタルトキハ其審判ヲ爲ス可シ。合團ノ地ノ特別裁判

權ハ戒嚴令ノ定ムル所ニ依ル

第二十四條 軍中若クハ臨戰合團ノ地ニ於テ專任判士ヲ以テ構成シタル軍法會議ハ高等軍

法會議ノ管轄ニ屬スル事件ノ外被告人ノ身分ニ拘ハラス其犯罪ヲ審判スルコトヲ得

第二十五條 俘虜降人ノ犯罪ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第二十六條 軍人任官就役前ノ犯罪ト雖モ在官在役中ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス在官在

役中ノ犯罪ト雖モ免官免役ノ後告訴告發アリタルトキハ普通裁判所ノ裁判ニ附ス

第二十七條 軍人二人以上共ニ罪ヲ犯シ若クハ附帶犯ニシテ各其管轄ヲ異ニスルトキハ先

ニ審判ニ着手シタル軍法會議ニ於テ之ヲ審判シ高等軍法會議ノ管轄ニ屬スル者ト共犯若

クハ附帶犯ニ係ルトキハ高等軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス海軍軍人ト共犯若クハ附帶犯ニ

係ルトキハ亦同シ

第二十八條 重罪輕罪ト俱ニ發シ若クハ重罪輕罪ニ附帶シ若クハ重罪輕罪トシテ審判ニ着

手シタル違警罪ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第二十九條 軍中若クハ合團ノ地ノ軍法會議ヲ廢スルトキハ其軍法會議ニ於テ管轄シタル

被告事件ハ通常ノ權限ニ照シ管轄軍法會議ヲ以テ其管轄ト爲ス

第四章 陸軍檢察

第三十條 陸軍檢察ハ陸軍ニ關スル犯罪ヲ搜查シ證據ヲ收集ス

第三十一條 陸軍檢察官ハ左ニ記載シタル諸官ヲ以テ之ニ充ツ

一 憲兵ノ將校下士

二 師團副官

三 旅團副官

四 警備隊司令官

第三十二條 各所管ノ長官團隊ノ長タル將校大隊區司令官監獄長衛兵司令ハ各其管スル所

ノ事ニ關シ犯罪アルコトヲ知リタルトキハ檢察ノ處分ヲ爲シ若クハ陸軍檢察官ニ其處分

ヲ委ス可シ。理事職務ヲ行フノ際現行犯アルコトヲ知リタルトキハ訊問及ヒ檢證ノ處分

ヲ爲ス可シ

第三十三條 何人ヲ論セス軍人ノ犯罪ニ因リ損害ヲ受ケタル者ハ犯罪ノ地若クハ被告人所

在ノ地ノ陸軍檢察官若クハ被告人所屬ノ長官隊長大隊區司令官監獄長衛兵司令又ハ豫審

判事檢察司法警察官ニ之ヲ告訴スルコトヲ得

第三十四條 何人ヲ論セス軍人ノ犯罪アルコトヲ知リタルトキハ前條ニ記載シタル諸官ニ

之ヲ告發スルコトヲ得

第三十五條 陸軍所屬ノ官吏職務ヲ行フニ因リ軍人ノ犯罪アルコトヲ知リタルトキハ第三十三條ニ記載シタル諸官ニ之ヲ告發ス可シ

第三十六條 陸軍檢察官憲兵卒司法警察官巡查ハ軍人ノ重罪輕罪ノ現行犯アルコトヲ知リタルトキハ直ニ之ヲ逮捕ス可シ

第三十七條 何人ヲ論セス軍人ノ重罪輕罪ノ現行犯アルトキハ直ニ之ヲ逮捕スルコトヲ得。其逮捕シタル者ハ陸軍檢察官若クハ被告人所屬ノ長官隊長大隊區司令官監獄長衛兵司令又ハ司法警察官若クハ憲兵卒巡查ニ之ヲ交付ス可シ

第三十八條 憲兵卒巡查現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタルトキハ前條ニ記載シタル諸官ニ之ヲ引致ス可シ

第三十九條 陸軍檢察官現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタルトキハ訊問及ヒ檢證ノ處分ヲ爲シ調書ヲ作ルヘシ。第三十二條ニ記載シタル諸官現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタルトキハ前項ノ處分ヲ爲シ又ハ其處分ヲ陸軍檢察官ニ委スルコトヲ得

第四十條 陸軍檢察官及ヒ第三十二條ニ記載シタル諸官現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其檢證ノ處分ヲ爲ストキハ公力ヲ用フルコトヲ得

第四十一條 陸軍檢察官及ヒ第三十二條ニ記載シタル諸官軍人ト共犯ノ常人ナルコトヲ知

リタルトキハ前數條ニ照シ其處分ヲ爲ス可シ

第四十二條 司法警察官現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタルトキハ假リニ訊問及ヒ檢證ノ處分ヲ爲シ調書ヲ作り陸軍檢察官若クハ被告人所屬ノ長官隊長大隊區司令官監獄長衛兵司令ニ之ヲ送致ス可シ

第四十三條 豫審判事檢察司法警察官軍人ニ係ル重罪輕罪ノ告訴告發ヲ受ケタルトキハ陸軍檢察官若クハ被告人所屬ノ長官隊長大隊區司令官監獄長衛兵司令ニ之ヲ交付ス可シ

第四十四條 告訴人告發人ハ其願下ヲ爲シ若クハ其陳述ヲ變更セシコトヲ請求スルコトヲ得

第四十五條 陸軍檢察官及ヒ第三十二條ニ記載シタル諸官檢察ノ處分ヲ爲シタルトキハ被告事件ニ證據物件ヲ添ヘ左ノ手續ヲ爲ス可シ

一 重罪ト認ムルトキハ之ヲ長官ニ具申シ違警罪ト認ムルトキハ其事件ヲ管理ス可キ官司ニ交付ス可シ

二 裁判管轄ニ非サル者軍人ナルトキハ其事件ヲ管轄ス可キ軍法會議所在ノ地ノ陸軍檢察官ニ送致シ海軍軍人ナルトキハ海軍軍法會議ノ主理ニ送致シ常人ナルトキハ檢察處分ヲ爲シタル地ノ檢事ニ送致ス可シ但軍人ト共犯ノ常人ナルトキハ長官ニ具申ス可シ

三 高等軍法會議ノ管轄ニ屬スル者ナルトキハ陸軍大臣ニ具申ス可シ

第五章 審問

第四十六條 陸軍大臣又ハ長官被告事件ノ具申ヲ受ケタルトキハ左ノ手續ヲ爲ス可シ

一 其犯罪輕罪以上ノ刑ニ該ル可キモノト認ムルトキハ審問若クハ審判ノ命令ヲ下シ禁錮以下ノ刑ニ該ル可キモノニシテ審問ヲ要セスト認ムルモノ及ヒ違警罪ノ正式裁判ニ附ス可キモノハ直ニ判決ノ命令ヲ下ス可シ

二 審問若クハ審判若クハ判決ノ命令ヲ下シタルトキハ其事件ヲ理事ニ下付ス可シ

第四十七條 理事審問ヲ爲ストキハ先ツ召喚狀ヲ發ス可シ
被告人出廷シタルトキハ即日之ヲ訊問ス可シ。罰金以下ノ刑ニ該ル可キ被告人ハ代人ヲ出廷セシムルコトヲ得

第四十八條 理事ハ召喚狀ヲ受ケタル被告人其日時ニ出廷セサルトキハ勾引狀ヲ發スルコトヲ得

第四十九條 理事ハ重罪ノ刑ニ該ル可キモノト認ムル被告人ナルトキ又ハ輕罪以下ノ刑ニ該ル可キモノト認ムル被告人ニシテ罪證ヲ湮滅シ若クハ逃走ノ恐レアルトキ又ハ未遂罪ヲ犯シ其目的ヲ遂ケ若クハ脅迫罪ヲ犯シ其手段ヲ實行スルノ恐レアルトキハ直ニ勾引狀ヲ發ス可シ

第五十條 勾引狀ハ管轄地外ト雖モ之ヲ執行スルコトヲ得

第五十一條 理事ハ召喚狀若クハ勾引狀ヲ受ク可キ被告人遠隔ノ地ニ在ルトキハ其地ノ陸

軍檢察官若クハ理事豫審判事司法警察官ニ訊問ヲ囑託スルコトヲ得又陸軍檢察官理事司法警察官ニ召喚狀ノ送達勾引狀ノ執行ヲ囑託スルコトヲ得

第五十二條 勾引狀ヲ以テ引致シタル被告人ハ四十八時内ニ之ヲ訊問ス可シ四十八時ヲ經過シ仍ホ留置ヲ要スルトキハ收禁狀ヲ發ス可シ

第五十三條 理事ハ召喚狀若クハ勾引狀ヲ受ケタル被告人疾病其他正當ノ事故アリテ令狀ニ應スル能ハサルコトヲ證明シタルトキハ其所在ニ就キ之ヲ訊問スルコトヲ得若シ被告人遠隔ノ地ニ在ルトキハ其地ノ理事陸軍檢察官若クハ豫審判事司法警察官ニ訊問ノ條件ヲ明示シテ其處分ヲ囑託スルコトヲ得

第五十四條 理事ハ被告人ノ所在ヲ覺知スルコト能ハサルトキハ陸軍檢察官及ヒ各控訴院ノ檢察長二人相書ヲ送り其逮捕ヲ求ムルコトヲ得

第五十五條 理事ハ被告人禁錮以上ノ刑ニ該ル可キモノト認メタルトキハ收禁狀ヲ發スルコトヲ得。收禁狀ヲ發シタル後被告事件禁錮以上ノ刑ニ該ル可キモノニ非ス又ハ收禁ヲ要セサルモノト認メタルトキハ收禁ヲ取消ス可シ

第五十六條 勾引狀收禁狀ハ憲兵卒ヲシテ之ヲ執行セシム可シ但憲兵ヲ置カサル地ニ於テハ衛兵ヲシテ之ヲ執行セシム可シ勾引狀ヲ受ク可キ被告人營内若クハ隊伍ニ在ルトキハ隊長ニ依リ其執行ヲ求ム可シ。被告人海軍艦船營内若クハ隊伍ニ在ルトキハ艦船營長隊伍ノ長ニ依リ其執行ヲ求ム可シ。憲兵卒衛兵勾引狀ヲ執行スルニ當リ被告人其家宅若ク

ハ他人ノ家ニ逃匿シタリト認メタルトキハ其地ノ戸長若クハ隣佑ノ立會ヲ求メ之ヲ搜索シ其調書ヲ作り立會人ト共ニ署名捺印ス可シ若シ立會ヲ求ムルニ暇アラス若クハ之ヲ得ル能ハサルトキハ其立會ナクシテ搜索ヲ爲スコトヲ得

第五十七條 理事ハ事實審明ノ爲メ臨檢家宅搜索物件押收ノ處分ヲ爲スコトヲ得。若シ其場所遠隔ノ地ニ在ルトキハ其地ノ陸軍檢察官若クハ理事豫審判事司法警察官ニ其處分ヲ囑託スルコトヲ得

第五十八條 理事ハ事實審明ノ爲メ驛遞電信鐵道ノ官署及ヒ諸會社ニ事由ヲ通知シテ被告事件ニ關係アル往復文書電報及ヒ物件ヲ收受開披スルコトヲ得若シ其場所遠隔ノ地ニ在ルトキハ前條第二項ノ例ニ依リ本條ノ處分ヲ囑託スルコトヲ得

第五十九條 理事ハ證人及ヒ通事ヲ呼出スコトヲ得。證人皇族若クハ勅任官ナルトキハ理事其所在ニ就キ陳述ヲ聽ク可シ。證人疾病其他正當ノ事故アリテ呼出ニ應スル能ハサルコトヲ證明シタルトキハ理事其所在ニ就キ之ヲ訊問スルコトヲ得

證人遠隔ノ地ニ在ルトキハ第五十七條第二項ノ例ニ依リ本條ノ處分ヲ囑託スルコトヲ得第六十條 左ニ記載シタル者ハ證人ト爲スコトヲ得但事實參考ノ爲メ其陳述ヲ聽クコトヲ得

- 一 被害者
- 二 被害者及ヒ被告人ノ親屬

三 被害者及ヒ被告人ノ後見人又ハ其後見ヲ受クル者

四 被害者及ヒ被告人ノ雇人

五 現ニ陳述ヲ爲ス可キ事件ニシテ曾テ訴ヲ受ケ證憑充分ナラサルニ因リ免訴ノ宣告ヲ受ケタル者

六 重罪事件ノ爲メ軍法會議ノ判決ニ附セラレタル者若クハ重罪裁判所ニ移スノ言渡ヲ受ケタル者及ヒ重禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪事件ノ爲メ軍法會議又ハ普通裁判所ノ判決ニ附セラレタル者

七 公權ヲ剝奪セラレタル者又ハ公權ヲ停止セラレタル者

八 十六歲未滿ノ者

九 智覺精神ノ不充分ナル者

十 瘖啞者

第六十一條 理事被告人證人事實參考人ヲ訊問シ若クハ臨檢家宅搜索物件押收ノ處分ヲ爲ストキハ錄事之ニ立會ヒ調書ヲ作り訊問及ヒ供述ヲ錄取シ被告人證人事實參考人ニ讀示ス可シ理事ハ其讀示シタル所其陳述ニ違ハサルヤ否ヲ問ヒ陳述者ヲシテ之ニ署名捺印ヒシム可シ若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ錄事ヲシテ其旨ヲ記ヒシム可シ。急遽ノ際若クハ事故アリテ錄事立會ヲ爲スコト能ハサルトキハ其立會ナクシテ本條ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第六十二條 理事犯罪ノ性質方法及ヒ結果ヲ分明ナラシムル爲メ鑑定人ヲ要スルトキハ學術又ハ職業ニ因リ鑑定スルコトヲ得可キ者ニ命シテ其鑑定ヲ爲サシム可シ但第六十條ニ記載シタル者ハ鑑定人ト爲スコトヲ得ス若シ急遽ノ際正當ノ鑑定人ヲ得ルヲ能ハサル時ハ參考ノ爲メ之ニ鑑定ヲ命スルコト得。鑑定ヲ爲シタル者ハ鑑定書ヲ作り其方法結果及ヒ鑑定ヲ爲シタル時間ヲ詳記ス可シ若シ結果ヲ得ルコト能ハサルトキハ其推測スル所ヲ記シ之ニ署名捺印ス可シ

第六十三條 理事ハ證人通事鑑定人ヲシテ正實ニ陳述通譯鑑定ヲ爲スコトヲ宣誓セシム可シ。理事ハ證人通事鑑定人ニ宣誓書ヲ讀示シ之ニ署名捺印セシム可シ若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ錄事ヲシテ其旨ヲ附記セシム可シ。宣誓書ハ訴訟書類ニ添へ置ク可シ

第六十四條 理事ハ證人鑑定人通事事實參考人及ヒ參考ノ爲メ鑑定ヲ命シタル者疾病其他正當ノ事故ヲ證明セシテ呼出ニ應セサルトキハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ヲ科ス可シ若シ再度ノ呼出ニ應セサルトキハ更ニ二倍ノ罰金ヲ科ス可シ若シ五日內ニ正當ノ事故アリテ出廷スルコト能ハサルシコトヲ證明シタルトキハ罰金ノ宣告ヲ取消ス可シ。前項ノ場合ニ於テ證人事實參考人ニ對シテハ勾引狀ヲ發スルコトヲ得

第六十五條 理事ハ證人鑑定人宣誓ヲ肯セス若クハ宣誓シテ陳述鑑定ヲ肯セサルトキハ證人ハ普通刑法第八十條ニ依リ鑑定人ハ同法第七十九條ニ依リ罰金ヲ科ス可シ。證人

トシテ呼出シタル醫師藥商穩婆代言人辯護人公證人神官僧侶其身分職業ニ關スル秘密ノ事件ニ因リ委託ヲ受ケタル事ニ關シ陳述ヲ肯セサルトキハ前項ノ例ニ在ラス

第六十六條 理事ハ通事宣誓ヲ肯セス若クハ宣誓シテ通譯ヲ肯セサルトキ又ハ事實參考ノ爲メ陳述鑑定ヲ命セラレタル者之ヲ肯セサルトキハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ヲ科ス可シ

第六十七條 理事ハ證人事實參考人ノ陳述ヲ確實ナラシムル爲メ犯所若クハ其他ノ場所ニ同行スルコトヲ得。證人事實參考人同行スルコトヲ肯セサルトキハ第六十四條ニ照シ罰金ヲ科ス可シ

第六十八條 證人鑑定人通事事實參考人及ヒ參考ノ爲メ鑑定ヲ命セラレタル者ニ科シタル罰金ヲ納完セシメ若クハ罰金ヲ禁錮ニ換フルノ處分ハ普通刑法第二十七條ニ依リ理事之ヲ爲スコシ

第六十九條 理事ハ被告事件ニ關スル調書説明ノ爲メ其調書ヲ作りタル陸軍檢察官司法警察官其他ノ官吏ヲ呼出スコトヲ得

第七十條 理事審問ニ於テ共犯附帶犯若クハ餘罪ヲ覺舉シタルトキハ直ニ之ヲ審問ス可シ但其共犯者附帶犯者高等軍法會議ノ管轄ニ屬スルトキハ之ヲ長官ニ具申ス可シ

第七十一條 軍人ト共犯セシ常人ハ審問ヲ終リタル後證憑物件ヲ添へ其共犯事件ヲ管轄スル軍法會議所在ノ地ノ檢事ニ送致ス可シ

第七十二條 理事ハ審問中被告人ヲ其親屬故舊ニ責付スルコトヲ得但營内居住ノ者ハ責付スルノ限ニ在ラス

第七十三條 理事審判若クハ審問ノ命令ヲ受ケタル事件ノ審問ヲ終リ若クハ判決ノ命令ヲ受ケタルトキハ左ノ手續ヲ爲ス可シ

- 一 審判若クハ判決ノ命令ヲ受ケタル事件ニ於テハ意見書ヲ作り訴訟書類ト共ニ之ヲ判士長ニ交付シ會議ノ日時ヲ定メ判士長判士ニ通報ス可シ
 - 二 裁判管轄ニ非ス若クハ免訴ト爲ス可キ事件ニ於テハ訴訟書類ニ意見書ヲ添ヘ其命令ヲ下シタル陸軍大臣又ハ長官ニ具申ス可シ審問ノ命令ヲ受ケタル事件ニ於テモ亦同シ
- 第七十四條 陸軍大臣又ハ長官審問ノ命令ヲ下シタル事件ノ具申ヲ受ケ其事件有罪ナリト認メタルトキハ更ニ判決ノ命令ヲ下ス可シ

第六章 判決

第七十五條 軍法會議ハ判士長判士理事列席シテ之ヲ開ク可シ

第七十六條 判士長ハ被告人ヲ訊問シ若クハ判士又ハ理事ヲシテ其訊問ヲ爲サシム可シ。理事其訊問ヲ要スルルハ判士長ニ請フテ自ラ之ヲ訊問シ若クハ其訊問ヲ求ムルコトヲ得

第七十七條 判士長ハ開廷ヨリ判決終結ニ至ルマテノ間必要ト認ムルトキハ令狀ヲ發スルコトヲ得。判士長ハ法廷ニ於テ警戒ノ爲メ相當ノ處置ヲ爲スコトヲ得。法廷ニ於テ罪ヲ犯ス者アルトキハ判士長檢證ノ處分ヲ爲シ若クハ判士又ハ理事ヲシテ其處分ヲ爲サシム

調書及ヒ證據文書ヲ添ヘ其命令ヲ下シタル陸軍大臣又ハ長官ニ具申ス可シ但其犯人被告人ナルトキハ本案事件ト共ニ直ニ判決ヲ爲ス可シ

第七十八條 判士長ハ法廷其他ノ場合ニ於テ證人鑑定人通事ヲ要シ若クハ調書說明ノ爲メ官吏ノ呼出ヲ要スルトキハ第五章ノ例ニ依ル

第七十九條 證人鑑定人通事事實參考人及ヒ參考ノ爲メ鑑定ヲ命セラレタル者疾病其他正當ノ事故ナクシテ呼出ニ應ヒサルトキハ理事ノ意見ヲ聽キ軍法會議ニ於テ直ニ左ノ罰金科料ヲ科ス可シ

- 一 違警罪事件ニ於テハ五拾錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料
- 二 輕罪以上ノ事件ニ於テハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金

第八十條 判士長ハ證人事實參考人ヲ訊問シ若クハ判士又ハ理事ヲシテ其訊問ヲ爲サシム可シ。理事其訊問ヲ要スルトキハ判士長ニ請フテ自ラ之ヲ訊問シ若クハ其訊問ヲ求ムルコトヲ得

第八十一條 判決ノ爲メ更ニ檢證ノ處分ヲ要スルコトアルトキハ判士長其處分ヲ爲シ若クハ判士又ハ理事ヲシテ之ヲ爲サシム可シ。共犯附帶犯若クハ餘罪ヲ覺舉シタルトキハ直ニ其判決ヲ爲シ若クハ理事ニ移シテ其審問ヲ爲サシム可シ但其共犯者附帶犯者高等軍法會議ノ管轄ニ屬スルトキハ判士長ヨリ其命令ヲ下シタル陸軍大臣又ハ長官ニ具申ス可シ

第八十二條 被告人ノ訊問終リタルトキハ判士長更ニ被告人ニ對シ他ニ陳述ス可キコトナ
キヤ否ヲ問ヒ訊問終リタル旨ヲ告ク被告人ヲ退廷セシメ其判決ヲ爲ス可シ

第八十三條 禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ被告人逃走シテ開廷ノ日時ニ出廷セス若クハ其逃走
ニ由リ召喚狀ヲ送達スルコトヲ得サルトキ及ヒ罰金以下ノ刑ニ該ル可キ被告人召喚狀ヲ

受ケ開廷ノ日時ニ出廷ヒサルトキハ闕席裁判ヲ爲スコトヲ得

第八十四條 數人共犯ノ判決ヲ爲ストキハ被告人中闕席シタル者アリト雖モ出廷シタル者
ニ對シ其判決ヲ爲スコトヲ得

第八十五條 理事ハ會議席ニ列シ意見書ノ趣旨ヲ説明ス可シ
會議ノ判決其意見ト合ハサルトキハ其旨ヲ記シタル書面ヲ判決書ニ添フルコトヲ得。其

判決法律ニ違ヒ再議スヘキ理由アリト認ムルトキハ其判決ノ命令ヲ下シタル陸軍大臣又
ハ長官ニ具申ス可シ

第八十六條 判決書ハ理事左ノ條件ニ照シテ之ヲ作り判士長判士餘事ト共ニ署名捺印シ訴
訟文書ヲ添ヘ其命令ヲ下シタル陸軍大臣又ハ長官ニ具申ス可シ

- 一 判決ノ理由
- 二 有罪ノ判決書ニハ犯罪ノ證據及ヒ其罪ヲ罰ス可キ法律ノ正條
- 三 無罪ノ判決書ニハ被告人ノ死去セシコト若クハ人違ナリシコト若クハ被告事件罪ト
ナラサルコト若クハ犯罪ノ證據備ラサルコト

四 免訴ノ判決書ニハ公訴ノ期滿免除ト爲リタルコト若クハ大赦アリタルコト若クハ確
定裁判ヲ經タルコト若クハ法律ニ於テ其罪ヲ全免スルコト

五 管轄違ノ判決書ニハ其旨

六 私訴ノ裁判アリタルトキハ其旨

七 被告人ノ官位勳爵隊號職名氏名族籍年齢住所判決ノ年月日

第八十七條 左ニ記載シタルモノハ訴訟書類ヲ添ヘ長官ヨリ陸軍大臣ニ具申シ其他ハ長官
ニ於テ裁判宣告ノ命令ヲ下スコシ

一 死刑ニ該リタルトキ

二 佐官及ヒ其同等軍人重罪輕罪ノ刑ニ該リタルトキ

三 尉官及ヒ其同等軍人重罪ノ刑ニ該リタルトキ

第八十八條 陸軍大臣前條ノ具申ヲ受ケタルトキ又ハ高等軍法會議ノ判決將官及ヒ其同等
軍人ノ重罪輕罪ニ該リ若クハ前條ニ記載シタルモノニ該リタルモノハ意見書ヲ附シ上奏

ス可シ其裁可アリタルトキ高等軍法會議ノ判決ニ係ルモノハ裁判宣告ノ命令ヲ下シ他ノ
軍法會議ノ判決ニ係ルモノハ長官ニ下付シ長官ヲシテ裁判宣告ノ命令ヲ下サシム可シ

第八十九條 軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ於テハ長官第八十七條ノ例ニ依ラス直ニ裁判宣告
ノ命令ヲ下スコトヲ得

第九十條 長官軍法會議ノ判決法律ニ違ヒタリト認ムルトキハ之ヲ再議ヒシメ直ニ裁判宣

告ノ命令ヲ下ス權ナキモノハ意見書ヲ附シ陸軍大臣ニ具申ス可シ

第九十一條 陸軍大臣高等軍法會議若クハ長官ヨリ具申シタル判決法律ニ違ヒタリト認ムルトキハ之ヲ再議セシム可シ

第九十二條 裁判宣告ノ命令アリタルトキハ判士長判士理事列席シ被告人ヲ出廷セシメ判士長其宣告ヲ爲ス可シ。闕席裁判ノ宣告ハ被告人闕席ノマ、之ヲ爲ス可シ禁錮以上ノ刑ニ該リタル被告人對審終結ノ後逃走シテ出廷セス若クハ罰金以下ノ刑ニ該リタル被告人呼出ニ應セサルトキ亦同シ

第九十三條 禁錮以上ノ刑ニ該リタル被告人其宣告ヲ受ケテ逃走シ若クハ前條第二項ニ依リ宣告アリタル者禁錮以上ノ刑ニ該ルトキハ理事逮捕狀ヲ發ス可シ。逮捕狀執行ノ方法ハ勾引狀執行ノ例ニ依ル。若シ其所在分明ナラサルトキハ陸軍檢察官及ヒ控訴院ノ檢察長ニ人相書ヲ送り逮捕ヲ求ムルコトヲ得

第九十四條 被告人闕席ノマ、宣告ヲ爲シタルトキハ其宣告書ヲ軍法會議ノ門前ニ揭示シ其一通ヲ被告人ノ住所ニ送達ス可シ

第七章 再審

第九十五條 陸軍大臣軍法會議ニ於テ法律ノ罰セサル所爲ニ對シ刑ヲ宣告シ若クハ法律ニ定ムル所ノ刑ヨリ重キ刑ヲ宣告シ若クハ無罪ノ宣告ヲ爲ス可キニ免訴ノ宣告ヲ爲シタルコトアルヲ知リタルトキハ再審ヲ爲サシム可シ

第九十六條 軍法會議ノ宣告左ニ記載シタル條件ニ觸ル、モノアルトキハ理事及ヒ被告人ヨリ再審ノ申訴ヲ爲スコトヲ得被告人死去シタルトキハ其親屬之ヲ爲スコトヲ得

一 人ヲ殺シタル罪ニ付刑ノ宣告アリタル後其殺サレタリト認メラレタル者犯罪後現ニ生存シ又ハ犯罪前既ニ死去シタル確證アリタルトキ

二 同一ノ事件ニ付共犯ニ非スシテ別ニ刑ノ宣告ヲ受ケタル者アリタルトキ

三 公正ノ證書ヲ以テ當時犯罪ノ場所ニ在ラサルコトヲ證明シタルトキ

四 既ニ判決ヲ經タル事件ニ對シ再ヒ判決アリタルトキ

五 被告人ヲ陷害シタル罪ニ因リ刑ノ宣告ヲ受ケタル者アリタルトキ

六 公正ノ證書ヲ以テ訴訟書類ニ偽造又ハ錯誤アルコトヲ證明シタルトキ

第九十七條 陸軍大臣前條ニ記載シタル事實アルコトヲ知リタルトキハ再審ヲ爲サシム可シ。長官其事實ヲ發見シタルトキハ訴訟書類ニ意見書ヲ附シ陸軍大臣ニ具申ス可シ

第九十八條 闕席裁判ニテ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ハ刑ノ期滿免除ニ至ルマテ再審ノ申訴ヲ爲スコトヲ得但裁判宣告アリタルコトヲ知リ若クハ捕ニ就キ若クハ自首シタルトキハ重罪ノ刑ニ於テハ十日禁錮ノ刑ニ於テハ三日内ニ非レハ申訴ヲ爲スコトヲ得ス。罰金以下ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ハ其住所ニ宣告書ノ送達アリタル日ヨリ三日内ニ再審ノ申訴ヲ爲スコトヲ得

第九十九條 再審ノ申訴ハ刑ノ宣告ヲ爲シタル軍法會議ヲ管轄スル長官ニ之ヲ爲ス可シ高

等軍法會議ニ於テ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ナルトキハ陸軍大臣ニ其申訴ヲ爲ス可シ。理事其申訴ヲ爲ストキハ其理由書ニ原裁判宣告書ノ謄本及ヒ證據書類ヲ添フ可シ。被告人若クハ其親屬其申訴ヲ爲ストキハ其理由書ヲ理事ニ出シ理事意見書ヲ添フ可シ。長官再審ノ申訴ヲ受ケタルトキハ訴訟書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ陸軍大臣ニ具申ス可シ。關席裁判ニ對スル申訴ナルトキハ直ニ再審ヲ爲サシム可シ。陸軍大臣再審ノ申訴ヲ受ケ若クハ長官ヨリ再審ノ具申ヲ受ケタルトキハ其再審ヲ爲サシム可シ

第百條 陸軍大臣再審ノ命令ヲ下シタルトキ刑ノ執行中ニ係ルモノハ其執行ヲ停止ス可シ
第百一條 再審ヲ爲シタル事件前ニ上奏ヲ經タルモノナルトキハ其判決ヲ上奏シテ裁可ヲ請フ可シ

第八章 復權

第百二條 復權ノ願ハ普通刑法第六十三條ニ定メタル期限ヲ經過シタル後刑ノ宣告ヲ受ケタル者ヨリ陸軍大臣ニ之ヲ爲スコトヲ得。其復權願書ハ二通ヲ作り本人署名捺印シ左ニ記載シタル書類ヲ添ヘ郡區長ニ出シ郡區長願人ノ品行其他必要ノ調査ヲ爲シ地方長官ニ出シ其長官ハ之ニ意見書ヲ添ヘ願人住居ノ地ヲ管轄スル長官ニ出ス可シ

- 一 裁判宣告書ノ謄本
- 二 主刑ノ滿期若クハ特赦若クハ期滿免除ト爲リタルコトヲ證明スル書類
- 三 假出獄及ヒ假リニ監視ヲ免セラレタルコトアルトキハ其證書

四 賠償ノ義務ヲ免カレタル證書

五 過去現在ノ住所及ヒ生計ヲ記載シタル書類

第百三條 長官前條ノ書類ヲ受領シタルトキハ之ヲ理事ニ付シ理事更ニ必要ノ調査ヲ爲シ意見書ヲ作り一切ノ書類ヲ添ヘ長官ニ出シ長官ハ意見書ヲ附シ陸軍大臣ニ具申ス可シ

第百四條 陸軍大臣復權ノ願ニ關スル書類ヲ受領シタルトキハ意見書ヲ附シテ上奏ス可シ
第百五條 復權ノ願裁可アリタルトキハ陸軍大臣裁可狀ヲ長官ニ下付シ長官ハ理事ヲシテ

地方長官ヲ經テ本人ニ傳達セシム可シ。理事ハ裁可狀ノ謄本ヲ刑ノ宣告ヲ爲シタル軍法會議ニ送致シ軍法會議ニ於テハ之ヲ裁判宣告書ニ記入ス可シ

第百六條 復權ノ願棄却セラレタルトキハ陸軍大臣願書ニ其旨ヲ記シタル書面ヲ附シ長官ニ下付シ長官ハ理事ヲシテ前條第一項ノ處分ヲ爲サシム可シ。復權ノ願棄却セラレタルトキハ普通刑法第六十三條ニ定メタル期限ノ半ヲ經過スルニ非レハ更ニ其願ヲ爲スコトヲ得ス

第九章 特赦

第百七條 特赦ノ申請ハ刑ノ宣告ヲ爲シタル軍法會議ヲ管轄スル長官又ハ理事若クハ司獄官ヨリ犯人ノ情狀ヲ具シ陸軍大臣ニ之ヲ爲スコトヲ得。理事其申請ヲ爲ストキハ裁判宣告ノ命令ヲ下シタル陸軍大臣又ハ長官ニ其書面ヲ出ス可シ長官其書面ヲ受領シタルトキハ之ニ意見書ヲ附シ陸軍大臣ニ具申ス可シ。司獄官其申請ヲ爲ストキハ裁判宣告ノ命令

ヲ下シタル陸軍大臣又ハ長官ニ其書面ヲ出ス可シ長官其書面ヲ受領シタルトキハ理事ノ意見書ヲ徴シ自己ノ意見書ヲ附シ陸軍大臣ニ具申ス可シ

第一百八條 陸軍大臣前條ノ書類ヲ受領シタルトキハ意見書ヲ附シ上奏ス可シ

第一百九條 陸軍大臣ハ刑ノ宣告アリタル後何時ニテモ特赦ノ上奏ヲ爲スコトヲ得

第一百十條 特赦ノ申請アルモ死刑ヲ除クノ外ハ刑ノ執行ヲ停止セス

第一百十一條 特赦ノ上奏裁可アリタルトキハ陸軍大臣特赦狀ヲ長官ニ下付シ長官ハ理事ヲシテ之ヲ本人ニ傳達セシム可シ高等軍法會議ノ理事ノ申請ニ係ルモノハ其理事ヲシテ之ヲ本人ニ傳達セシム可シ。理事ハ特赦ノ裁可アリタル旨ヲ裁判宣告書ニ記入ス可シ

第二海軍治罪法之部

海軍治罪法明治二十二年二月十二日法律第五號 明治二十二年三月十五日ヨリ施行

第一章 總則

第一條 軍人ノ死シタル重罪輕罪ノ審判ハ軍法會議ニ於テ之ヲ爲ス。海軍官署若クハ軍人ノ損害ニ係ル本案附帶ノ私訴アルトキハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第二條 軍法會議ハ傍聽ヲ許サス但其裁判宣告ヲ爲ストキハ軍人ニ限り之ヲ許ス

第三條 軍人ト稱スルハ海軍刑法第五十條第五十一條ニ記載シタル者ヲ謂フ。陸軍軍人ト稱スルハ陸軍刑法第三條第九條ニ記載シタル者ヲ謂フ

第四條 長官ト稱スルハ海軍大臣及ヒ司令官ヲ謂フ。司令官ト稱スルハ鎮守府司令官艦隊司令官艦隊司令官分遣艦隊司令官及ヒ合圍ノ地ノ司令官ヲ謂フ

第五條 親屬ト稱スルハ普通刑法第一百十四條第一百五條ニ記載シタル者ヲ謂フ

第六條 普通治罪法第九條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條第十八條第三十九條第一百一條第一百三十三條第三項第一百四十六條第二百五十六條第二百六十一條第一項ハ此治罪法ニ於テ之ヲ適用ス

第七條 歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者ハ召集中ノ外軍人ノ例ニ依ルコトヲ得ス

第八條 臨戰合圍ノ地ニ於テハ司令官審判ノ手續ヲ省略スルコトヲ得

第二章 軍法會議ノ構成

第九條 軍法會議ヲ設クルコト左ノ如シ

東京軍法會議

鎮守府軍法會議

艦隊軍法會議

高等軍法會議

合圍地軍法會議

東京軍法會議及ヒ各鎮守府軍法會議ハ常設ト爲シ艦隊軍法會議ハ臨時各艦隊ニ之ヲ設ク高等軍法會議ハ臨時東京ニ之ヲ設ク合圍地軍法會議ハ臨時合圍ノ戒嚴間之ヲ設ク

第十條 軍法會議ハ判士長判士主理若クハ主理試補及ヒ録事ヲ以テ構成ス
 第十一條 判士長判士ハ高等軍法會議ニ於テハ第一表ニ據リ他ノ軍法會議ニ於テハ第二表ニ據リ將校ヲ以テ之ニ充ツ。臨戰合圍ノ地ニ於テハ判士二名ヲ減スルコトヲ得

第一表		第二表	
判士長	判官	判士	被告人
判士長 一名	尉官 一名	陸海軍下士以下ノ軍人	
佐官 一名	大尉 一名	海軍少尉及同等ノ陸海軍人並ニ准士官	
佐官 一名	少尉 一名	海軍大尉(奏任官五等)及ヒ同等ノ陸海軍人	
大佐 一名	大尉(奏任官四等) 二名	海軍大尉(奏任官四等)及ヒ同等ノ陸海軍人	
大佐(奏任官一等) 一名	少佐 一名	海軍少佐及ヒ同等ノ陸海軍人	
少將 一名	大佐(奏任官二等) 二名	海軍大佐(奏任官二等)及ヒ同等ノ陸海軍人	
中將 一名	大佐(奏任官一等) 二名	海軍大佐(奏任官一等)及ヒ同等ノ陸海軍人	

中將 一名	中將 一名	海軍少將及ヒ同等ノ陸海軍人
大將 一名	中將 一名	海軍中將及ヒ同等ノ陸海軍人
大將 一名	大將 一名	陸海軍大將

第二表		被告人	
判士長	判官	判士	被告人
判士長 一名	尉官 一名	陸海軍下士以下ノ軍人	
佐官 一名	大尉 一名	海軍少尉及ヒ同等ノ陸海軍人並ニ准士官	
佐官 一名	少尉 一名	海軍大尉(奏任官五等)及ヒ同等ノ陸海軍人	
大佐 一名	大尉(奏任官四等) 二名	海軍大尉(奏任官四等)及ヒ同等ノ陸海軍人	
大佐(奏任官一等) 一名	少佐 一名	海軍少佐及ヒ同等ノ陸海軍人	
少將 一名	大佐(奏任官二等) 二名	海軍大佐(奏任官二等)及ヒ同等ノ陸海軍人	

中將

一名

少將
大佐(奏任官一等)

二名若クハ一名
二名若クハ三名

海軍大佐(奏任官一等)及ヒ同等ノ陸海軍人

第十二條 軍人ニ非サル者ヲ軍法會議ニ於テ審判スヘキトキハ其身分ニ依リ前條ノ各表ニ照シテ判士長判士ヲ定ム

第十三條 外國又ハ戰地ニ數隻ノ艦船ヲ差遣スルトキハ海軍大臣其先任艦長ニ軍法會議ヲ開クノ權ヲ附與スルコトヲ得此場合ニ於テハ其權限艦隊司令官ニ同シ

第十四條 將官ヲ以テ判士長判士ト爲ストキハ海軍大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ勅命ス。佐官ヲ以テ判士長判士ト爲シ尉官ヲ以テ判士ト爲ストキ東京ニ於テハ海軍大臣之ヲ命シ鎮守府若クハ艦隊ニ於テハ司令官其部下中ヨリ之ヲ命ス。艦隊ニ於テ判士ト爲ルヘキ將校缺乏スルトキハ准將校ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得。鎮守府若クハ艦隊ニ於テ部下ニ非サル者ヲ以テ判士ト爲スト要スルトキハ司令官ノ上申ニ依リ海軍大臣之ヲ命ス

第十五條 艦隊軍法會議ニ於テハ司令官部下ノ將校准將校ヲシテ主理ノ職務ヲ行ハシメ士官若クハ下士ヲシテ錄事ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第十六條 合圍地軍法會議ノ判士長判士ハ司令官其部下ヨリ之ヲ命ス

第十七條 臨戰合圍ノ地ニ於テハ司令官專任判士ヲ命スルコトヲ得又部下ノ下士ヲシテ錄事ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得。合圍ノ地ニ於テハ司令官其地所在ノ高等官ヲ以テ判士若クハ主理ニ充テ判任官ヲ以テ錄事ニ充ツルコトヲ得

第十八條 判士長判士主理左ニ記載シタル者ナルトキハ其審判ニ從事スルコトヲ得ス

- 一 被告人被害者及ヒ其配偶者ノ親屬
- 二 被告人被害者ノ後見人
- 三 告發人被害者及證據ヲ陳述シタル者

第十九條 原裁判ニ從事シタル判士長判士主理ハ再議及ヒ再審ノ裁判ニ列スルコトヲ得ス。海軍檢察ノ職務ヲ行ヒタル者ハ其事件ノ審判ヲ爲スコトヲ得ス。第十五條ノ場合ニ於テ審問ヲ爲シタル者ニハ其事件ノ判士長判士ヲ命スルコトヲ得ス

第二十條 第十四條第四項ノ場合ニ於テ海軍大臣ハ判士長判士ヲ命セスシテ被告人ヲ他ノ常設ノ軍法會議ニ移シテ其審判ヲ爲サシムルコトヲ得

第三章 軍法會議ノ權限

第二十一條 東京軍法會議ハ左ニ記載シタル者ヲ審判ス

- 一 司令官ノ部下ニ屬セサル佐官以下ノ軍人其他海軍ノ用ニ供スル船舶ノ乘員ニシテ重罪輕罪ヲ犯シタル者
- 二 第二十三條第二項第三項ニ依リ審判ノ委託ヲ受ケタル者

第二十二條 鎮守府軍法會議ハ左ニ記載シタル者ヲ審判ス

- 一 鎮守府司令長官ノ部下ニ屬スル佐官以下ノ軍人其他鎮守府ノ用ニ供スル船舶ノ乘員ニシテ重罪輕罪ヲ犯シタル者

二 第二十三條第二項第三項ニ依リ審判ノ委託ヲ受ケタル者

第二十三條 艦隊軍法會議ハ艦隊司令官艦隊司令官分遣艦隊司令官部下ニ屬スル佐官以下ノ軍人其他從軍諸員及ヒ艦隊ノ用ニ供スル委員ニシテ重罪輕罪ヲ犯シタル者ヲ審判ス。艦隊司令官艦隊司令官分遣艦隊司令官時機ニ依リ前項ニ記載シタル者ノ審判ヲ常設ノ軍法會議ニ委スルコトヲ得。艦隊ニ屬スル艦船長ハ事件急速ヲ要スル場合ニ於テハ直ニ前項ノ處分ヲ爲スコトヲ得但其事由ヲ速ニ其艦隊司令官艦隊司令官若クハ分遣艦隊司令官ニ報告スヘシ

第二十四條 艦隊若クハ數隻ノ艦船外國ニ出發ノ後其司令官若クハ先任艦長ノ部下ニ屬スル者外國ニ在テ犯罪發覺シタルハ本人ノ所在地最近ノ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス可シ

第二十五條 佐官以下ノ軍人軍法會議所在ノ軍區内ニ於テ重罪輕罪ヲ犯シタルトキハ管轄外ノ者ト雖モ其地ノ軍法會議ニ於テ之ヲ審判スルコトヲ得

第二十六條 高等軍法會議ハ將官若クハ其同等軍人ノ犯シタル重罪輕罪ヲ審判シ及ヒ再審ノ審判ヲ爲ス

第二十七條 合圍地軍法會議ハ第二十一條第二十二條第二十三條ニ記載シタル者ノ臨戰合圍ノ地ニ在リテ犯シタル重罪輕罪ヲ審判ス

第二十八條 合圍地軍法會議ニ於テハ從軍軍人ノ犯罪ヲ審判シ又何人ト雖モ海軍刑法ヲ以テ論ス可キ罪ヲ犯シタルトキハ其審判ヲ爲スヘシ。合圍ノ地ノ特別裁判權ハ戒嚴令定ム

ル所ニ依ル

第二十九條 臨戰合圍ノ地ニ於テ專任判士ヲ以テ構成シタル軍法會議ハ高等軍法會議ノ管轄ニ屬スル事件ノ外被告人ノ身分ニ拘ハラズ其犯罪ヲ審判スルコトヲ得

第三十條 俘虜降人ノ犯罪ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第三十一條 軍人任官就役前ノ犯罪ト雖モ在官現役中ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス在官現役中ノ犯罪ト雖モ免官若クハ現役ヲ去リタル後告訴發アリタルトキハ普通裁判所ノ裁判ニ付ス

第三十二條 軍人二人以上共ニ重罪輕罪ヲ犯シ若クハ附帶犯ニシテ各其管轄ヲ異ニスルトキハ先キニ審判ニ着手シタル軍法會議ニ於テ之ヲ審判シ高等軍法會議ノ管轄ニ屬スル者ハ共犯若クハ付帶犯ニ係ルトキハ高等軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス陸軍軍人ト共犯若クハ附帶犯ニ係ルトキモ亦同シ

第三十三條 數罪俱ニ發シテ各其管轄ヲ異ニシ又ハ審判中裁判管轄變更シタルトキハ既ニ審判ニ着手シタル軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第三十四條 重罪輕罪ト俱ニ發シ若クハ重罪輕罪ニ附帶シ若クハ重罪輕罪ト認メ審判ニ着手シタル違警罪ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第三十五條 合圍地軍法會議ヲ廢スルトキ其軍法會議ニ於テ管轄シタル被告事件ハ通常ノ權限ニ照シ管轄軍法會議ヲ以テ其管轄ト爲ス

第四章 海軍檢察

第三十六條 海軍檢察ハ海軍ニ關スル犯罪ヲ捜査シ證據ヲ收集ス

第三十七條 海軍檢察官ハ左ニ記載シタル諸官ヲ以テ之ニ充ツ

一 艦船營副長分隊長

二 生徒隊司令官生徒分隊長及ヒ學校幹事

三 衛兵司令

四 軍法會議ノ主理及ヒ主理試補

第三十八條 各廳長及ヒ艦船營長ハ各其管スル所ノ事ニ關シ犯罪アルコトヲ知リタルトキ

ハ檢察ノ處分ヲ爲シ若クハ海軍檢察官ニ其處分ヲ委スヘシ

第三十九條 何人ヲ論セス軍人ノ犯罪ニ因リテ損害ヲ受ケタル者ハ海軍檢察官若クハ被告

人ノ所屬長若クハ憲兵ノ將校下士又ハ豫審判事檢察司法警察官ニ之ヲ告訴スルコトヲ得

第四十條 何人ヲ問ハス軍人ノ犯罪アルコトヲ知リタルトキハ前條ニ記載シタル諸官ニ告

發スルコトヲ得

第四十一條 海軍所屬ノ官吏職務ヲ行フニ因リ軍人及ヒ海軍ノ用ニ供スル船員ノ犯罪

アルコトヲ知リタルトキハ第三十九條ニ記載シタル諸官ニ告發スヘシ

第四十二條 憲兵ノ將校下士又ハ豫審判事檢察司法警察官軍人ニ係ル重罪輕罪ノ告訴ヲ受

ケタルトキハ其事件ヲ海軍檢察官若クハ被告人ノ所屬長ニ交付ス可シ

第四十三條 海軍檢察官憲兵ノ將校下士卒又ハ司法警察官巡查ハ軍人ノ重罪輕罪ノ現行犯

アルコトヲ知リタルトキハ直ニ之ヲ逮捕ス可シ

第四十四條 何人ヲ論セス軍人ノ重罪輕罪ノ現行犯アルトキハ直ニ之ヲ逮捕スルコトヲ

得。其逮捕シタル者ハ海軍檢察官又ハ司法警察官若クハ憲兵巡查ニ之ヲ交付ス可シ

第四十五條 憲兵卒巡查現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタルトキハ海軍檢察官

若クハ憲兵ノ將校下士卒又ハ司法警察官ニ之ヲ引致ス可シ

第四十六條 海軍檢察官現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタルトキハ訊問及ヒ檢

證處分ヲ爲シ調書ヲ作ル可シ各廳長艦船營長現行犯ノ軍人ヲ逮捕シタルトキハ前項ノ處

分ヲ爲シ又ハ其處分ヲ海軍檢察官ニ委シ若クハ憲兵ノ將校下士ニ囑託スルコトヲ得

第四十七條 海軍檢察官各廳長艦船營長現行犯人ヲ逮捕シ若クハ其檢證處分ヲ爲ストキハ

公力ヲ用フルコトヲ得

第四十八條 海軍檢察官及ヒ各廳長艦船營長軍人ト共犯ノ常人アルコトヲ知リタルトキハ

前數條ニ照シ其處分ヲ爲スヘシ

第四十九條 憲兵ノ將校下士又ハ司法警察官現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタ

ルトキハ假リニ訊問及ヒ檢證處分ヲ爲シ調書ヲ作り海軍檢察官ニ之ヲ送致ス可シ

第五十條 告訴人告發人ハ其願下ヲ爲シ若クハ其陳述ヲ變更セシコトヲ請求スルコトヲ

得

第五十一條 海軍檢察官各廳長艦船營長檢察ノ處分ヲ爲シタルトキハ被告事件ニ證據物件

ヲ添ヘ左ノ手續ヲ爲ス可シ

一 重罪輕罪ト認ムルトキハ之ヲ長官ニ具申ス可シ但艦隊ニ於テハ被告人所屬ノ艦船長ヲ經由ス可シ

二 違警罪ト認ムルトキハ之ヲ管轄スヘキ官司ニ交付スヘシ

三 裁判管轄ニ非サル者軍人ナルトキハ之ヲ其事件ヲ管理ス可キ長官部下ノ海軍檢察官ニ送致シ陸軍軍人ナルトキハ其事件ヲ管轄ス可キ軍法會議所在ノ地ノ陸軍檢察官ニ送致シ常人ナルトキハ檢察處分ヲ爲シタル地ノ檢察ニ送致ス可シ但軍人ト共犯ノ常人ナルトキハ長官ニ具申ス可シ

四 高等軍法會議ノ管轄ニ屬スルモノナルトキハ之ヲ海軍大臣ニ具申スヘシ

第五章 審問

第五十二條 長官被告事件ノ具申ヲ受ケタルトキハ左ノ手續ヲ爲ス可シ

一 其犯罪輕罪以上ノ刑ニ該ル可キモノト認ムルトキハ審問若クハ審判ノ命令ヲ下シ禁錮以下ノ刑ニ該ル可キモノニシテ審問ヲ要セスト認ムルトキハ直チニ判決ノ命令ヲ下ス可シ

二 審問若クハ審判若クハ判決ノ命令ヲ下シタルトキハ其事件ヲ主理ニ下付ス可シ

第五十三條 主理審問ヲ爲ストキハ先ツ召喚狀ヲ發ス可シ。被告人出廷シタルトキハ即日

之ヲ訊問ス可シ。罰金以下ノ刑ニ該ル可キ被告人ハ代人ヲ出廷セシムルコトヲ得

第五十四條 主理ハ召喚狀ヲ受ケタル被告人其日時ニ出廷セサルトキハ勾引狀ヲ發スルコトヲ得

第五十五條 主理ハ重罪ノ刑ニ該ル可キモノト認ムル被告人ナルトキ又ハ輕罪以下ノ刑ニ該ル可キモノト認ムル被告人ニシテ罪證ヲ湮滅シ若クハ逃走ノ恐レアルトキ又ハ未遂罪ヲ犯シ其目的ヲ遂ケ若クハ脅迫罪ヲ犯シ其手段ヲ實行スルノ恐レアルトキハ直チニ勾引狀ヲ發ス可シ

第五十六條 主理ハ召喚狀若クハ勾引狀ヲ受ク可キ被告人遠隔ノ地ノ主理海軍檢察官若クハ憲兵ノ將校下士又ハ豫審判事司法警察官ニ訊問ヲ囑託スルコトヲ得又其地ノ主理海軍檢察官若クハ憲兵ノ將校下士又ハ司法警察官ニ召喚狀ノ送達勾引狀ノ執行ヲ囑託スルコトヲ得

第五十七條 勾引狀ヲ以テ引致シタル被告人ハ四十八時内ニ之ヲ訊問ス可シ四十八時ヲ經過シ仍ホ留置ヲ要スルトキハ收禁狀ヲ發ス可シ

第五十八條 主理ハ召喚狀若クハ勾引狀ヲ受ケタル被告人疾病其他正當ノ事故アリテ令狀ニ應スル能ハサルコトヲ證明シタルトキハ其所在ニ就キ之ヲ訊問スルコトヲ得若シ被告人遠隔ノ地ニ在ルトキハ其地ノ主理海軍檢察官若クハ憲兵ノ將校下士又ハ豫審判事司法警察官ニ訊問ノ條件ヲ明示シテ其處分ヲ囑託スルコトヲ得

第五十九條 主理ハ被告人ノ所在ヲ覺知スルコト能ハサルトキハ海軍檢察官若クハ憲兵ノ將校及ヒ各控訴院ノ檢察長ニ人相書ヲ送り其逮捕ヲ求ムルコトヲ得

第六十條 主理ハ被告人禁錮以上ノ刑ニ該ル可キモノト認ムルトキハ收禁狀ヲ發スルコトヲ得。收禁狀ヲ發シタル後被告事件禁錮以上ノ刑ニ該ル可キモノニ非ス又ハ收禁ヲ要セサルモノト認ムルトキハ收禁ヲ取消ス可シ

第六十一條 勾引狀收禁狀ハ衛兵若クハ軍屬ヲシテ之ヲ執行セシム可シ。勾引狀ヲ受クヘキ被告人艦船營内若クハ隊伍ニ在ルトキハ艦船營長隊伍ノ長ニ依リ其執行ヲ求ム可シ。陸軍營内若クハ隊伍ニ在ルトキハ隊長ニ依リ其執行ヲ求ム可シ。勾引狀ヲ執行スルニ方リ被告人其家宅若クハ他人ノ家ニ逃匿シタリト認ムルトキハ其地ノ戶長若クハ隣佑ノ立會ヲ求メ之ヲ搜索シ其調書ヲ作り立會人ト共ニ署名捺印ス可シ若シ立會ヲ求ムルニ暇アラズ若クハ之ヲ得ル能ハサルトキハ其立會ヲクシテ搜索ヲ爲スコトヲ得

第六十二條 主理ハ事實審明ノ爲メ臨檢家宅搜索物件押收ノ處分ヲ爲スコトヲ得。其場所遠隔ノ地ニ在ルトキハ其他ノ主理海軍檢察官若クハ憲兵ノ將校下士又ハ豫審判事司法警察官ニ其處分ヲ囑託スルコトヲ得

第六十三條 主理ハ事實審明ノ爲メ驛遞電信鐵道ノ官署及ヒ諸會社ニ事由ヲ通知シテ被告事件ニ關係アル往復文書電報及ヒ物件ヲ收受開披スルコトヲ得。其場所遠隔ノ地ニ在ルトキハ前條第二項ノ例ニ依リ本條ノ處分ヲ囑託スルコトヲ得

第六十四條 主理ハ證人及ヒ通事ヲ呼出スコトヲ得。證人皇族若クハ敕任官ナルトキハ主理其所在ニ就キ陳述ヲ聽ク可シ。證人疾病其他正當ノ事故アリテ呼出ニ應スル能ハサルニトテ證明シタルトキハ主理其所在ニ就キ之ヲ訊問スルコトヲ得。證人遠隔ノ地ニアルトキハ第六十二條第二項ノ例ニ依リ本條ノ處分ヲ囑託スルコトヲ得

第六十五條 左ニ記載シタル者ハ證人ト爲スコトヲ得ス但事實參考ノ爲メ其陳述ヲ聽クコトヲ得

- 一 被害者
- 二 被害者及ヒ被告人ノ親屬
- 三 被害者及ヒ被告人ノ後見人又ハ其後見ヲ受クル者
- 四 被害者及ヒ被告人ノ雇人
- 五 現ニ陳述ヲ爲ス可キ事件ニシテ曾テ訴ヲ受ク證憑充分ナラサルニ因リ宣告ヲ受ケタル者
- 六 重罪事件ノ爲メ軍法會議ノ判決ニ付セラレタル者若クハ重罪裁判所ニ移スノ言渡ヲ受ケタル者及ヒ重禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪事件ノ爲メ軍法會議又ハ普通裁判所ノ判決ニ付セラレタル者
- 七 公權ヲ剝奪セラレタル者又ハ公權ヲ停止セラレタル者
- 八 十六歳未満ノ者

九 知覺精神ノ不充分ナル者

十 瘡腫者

第六十六條 主理被告人證人事實參考人ヲ訊問シ若クハ臨檢家宅搜索物件押收ノ處分ヲ爲ストキハ錄事之ニ立會ヒ調書ヲ作り訊問及ヒ供述ヲ錄取シ被告人證人事實參考人ニ讀示ス可シ。主理ハ其讀示シタル所其陳述ニ違ハサルヤ否ヲ問ヒ陳述者ヲシテ署名捺印セシム可シ若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ錄事ヲシテ其旨ヲ記セシム可シ。急遽ノ際若クハ事故アリテ錄事立會ヲ爲スコト能ハサルトキハ其立會ナクシテ本條ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第六十七條 主理犯罪ノ性質方法及ヒ結果ヲ分明ナラシムル爲メ鑑定人ヲ要スルトキハ學術又ハ職業ニ因リ鑑定スルコトヲ得可キ者ニ命シテ其鑑定ヲ爲サシム可シ但第六十五條ニ記載シタル者ハ鑑定人ト爲スコトヲ得ス若シ急遽ノ際正當ノ鑑定人ヲ得ルコト能ハサルトキハ參考ノ爲メ之ニ鑑定ヲ命スルコトヲ得。鑑定ヲ爲シタル者ハ鑑定書ヲ作り其方法結果及ヒ鑑定ヲ爲シタル時間ヲ詳記ス可シ若シ結果ヲ得ルコト能ハサルトキハ其推測スル所ヲ記シ之ニ署名捺印ス可シ

第六十八條 主理ハ證人通事鑑定人ヲシテ正實ニ陳述通譯鑑定ヲ爲スコトヲ宣誓セシム可シ。主理ハ證人通事鑑定人ニ誓書ヲ讀示シ之ニ署名捺印セシム可シ若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ錄事ヲシテ其旨ヲ附記セシム可シ。宣誓書ハ訴訟書類ニ添ヘ置ク可シ

第六十九條 主理ハ證人通事鑑定人事實參考人及ヒ參考ノ爲メ鑑定ヲ命シタル者疾病其他正當ノ事故ヲ證明セスシテ呼出ニ應セサルトキハ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ科ス可シ若シ再度ノ呼出ニ應セサルトキハ更ニ二倍ノ罰金ヲ科ス可シ若シ五日內ニ正當ノ事故アリテ出廷スルコト能ハサルコトヲ證明シタルトキハ罰金ノ宣告ヲ取消ス可シ。前項ノ場合ニ於テ證人事實參考人ニ對シテハ勾引狀ヲ發スルコトヲ得

第七十條 主理ハ證人鑑定人宣誓ヲ肯セス若クハ宣誓シテ陳述鑑定ヲ肯セサルトキハ證人ハ普通刑法第八十條ニ依リ鑑定人ハ同法第七十九條ニ依リ罰金ヲ科ス可シ。證人トシテ呼出シタル醫師藥商穩婆代言人辯護人公證人神官僧侶其身分職業ニ關スル秘密ノ事件ニ因リ委託ヲ受ケタル事ニ關シ陳述ヲ肯セサルトキハ前項ノ例ニ在ラス

第七十一條 主理ハ通事宣誓ヲ肯セス若クハ宣誓シテ通譯ヲ肯セサルトキハ事實參考ノ爲メ陳述鑑定ヲ命セラレタル者之ヲ肯セサルトキハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ科ス可シ

七十二條 主理ハ證人事實參考人ノ陳述ヲ確實ナラシムル爲メ犯所若クハ其他ノ場所ニ同行スルコトヲ得。證人事實參考人同行スルコトヲ肯セサルトキハ第六十九條ニ照シ罰金ヲ科ス可シ

第七十三條 證人通事鑑定人事實參考人及ヒ參考ノ爲メ鑑定ヲ命セラレタル者ニ科シタル

罰金ヲ完納セシメ若クハ罰金ヲ禁錮ニ換フルノ處分ハ普通刑法第二十七條ニ依リ主理之ヲ爲ス可シ

第七十四條 主理ハ被告事件ニ關スル調書説明ノ爲メ其調書ヲ作りタル海軍檢察官又ハ司法警察官其他ノ官吏ヲ呼出スコトヲ得

第七十五條 主理審問ニ於テ共犯附帯犯若クハ餘罪ヲ覺擧シタルトキハ直ニ之ヲ審問ス可シ但其共犯者附帯犯者高等軍法會議ノ管轄ニ屬スルトキハ之ヲ長官ニ具申ス可シ

第七十六條 軍人ト共犯セシ常人ハ審問ヲ終リタル後證憑物件ヲ添ヘ其共犯事件ヲ管轄スル軍法會議所在地ノ檢事ニ送致スヘシ

第七十七條 主理ハ審問中被告人ヲ其親屬故舊ニ責附スルコトヲ得但艦船營外居住ノ者ハ責付スルノ限ニ在ラス

第七十八條 主理審判若クハ命令ヲ受ケタル事件ノ審問ヲ終リ若クハ判決ノ命令ヲ受ケタルトキハ左ノ手續ヲ爲ス可シ
一 審判若クハ判決ノ命令ヲ受ケタル事件ニ於テハ意見書ヲ作り訴訟書類ト共ニ之ヲ判士長ニ交付シ會議ノ日時ヲ定メ判士長判士ニ通報ス可シ

二 裁判管轄ニ非ス若クハ免訴ト爲ス可キ事件ニ於テハ訴訟書類ニ意見書ヲ添ヘ其命令ヲ下シタル長官ニ具申ス可シ審問ノ命令ヲ受ケタル事件ニ於テモ亦同シ

第七十九條 長官審問ノ命令ヲ下シタル事件ノ具申ヲ受ケ其事件有罪ナリト認ムルトキハ

更ニ判決ノ命令ヲ下ス可シ

第六章 判決

第八十條 軍法會議ハ判士長判士主理錄事列席シテ之ヲ開ク可シ

第八十一條 判士長ハ被告人ヲ訊問シ若クハ判士又ハ主理ヲシテ其訊問ヲ爲サシム可シ。主理其審問ヲ要スルトキハ判士長ニ請フテ自ラ之ヲ訊問シ若クハ其訊問ヲ求ムルコトヲ得

第八十二條 判士長ハ同處ヨリ判決終結ニ至ルマテノ間必要ト認ムルトキハ令狀ヲ發スルコトヲ得。判士長ハ法廷ニ於テ警戒ノ爲メ相當ノ處置ヲ爲スコトヲ得。法廷ニ於テ罪ヲ犯ス者アルトキハ判士長檢證ノ處分ヲ爲シ若クハ判士又ハ主理ヲシテ其處分ヲ爲サシメ調書及ヒ證憑文書ヲ添ヘ其命令ヲ下シタル長官ニ具申ス可シ但其犯人被告人ナルトキハ本案事件ト共ニ直ニ判決ヲ爲ス可シ

第八十三條 判士長ハ法廷其他ノ場合ニ於テ證人通事鑑定人ヲ要シ若クハ調書説明ノ爲メ官吏ノ呼出ヲ要スルトキハ第五章ノ例ニ依ル

第八十四條 證人通事鑑定人事實參考人及ヒ參考ノ爲メ鑑定ヲ命セラレタル者疾病其他正當ノ事故ヲクシテ呼出ニ應セザルトキハ主理ノ意見ヲ聽キ軍法會議ニ於テ直ニ左ノ罰金科料ヲ科ス可シ
一 違警罪事件ニ於テハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料

二 輕罪以上ノ事件ニ於テハ二圓以上二十圓以下ノ罰金

第八十五條 判士長ハ證人事實參考人ヲ訊問シ若クハ判士又ハ主理ヲシテ其訊問ヲ爲サシム可シ。主理其訊問ヲ要スルトキハ判士長ニ請フテ自ラ之ヲ訊問シ若クハ其訊問ヲ求ムルコトヲ得

第八十六條 判決ノ爲メ更ニ檢證處分ヲ要スルコトアルトキハ判士長其處分ヲ爲シ若クハ判士又ハ主理ヲシテ之ヲ爲サシム可シ。共犯附帶犯若クハ餘罪ヲ覺擧シタルトキハ直ニ其判決ヲ爲シ若クハ主理ニ移シテ其審問ヲ爲サシム可シ但其共犯者附帶犯者軍法會議ノ管轄ニ屬スルトキハ判士長ヨリ其命令ヲ下シタル長官ニ具申ス可シ

第八十七條 被告人ノ訊問終リタルトキハ判士長更ニ被告人ニ對シ他ニ陳述スヘキコトナキヤ否ヤヲ問ヒ訊問終リタル旨ヲ告ク被告人ヲ退廷セシメ其判決ヲ爲ス可シ

第八十八條 禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ被告人逃走シテ開廷ノ日時ニ出廷セス若クハ其逃走ニ依リ召喚狀ヲ送達スルコトヲ得サルトキ及ヒ罰金以下ノ刑ニ該ル可キ被告人召喚狀ヲ受ケ開廷ノ日時ニ出廷セサルトキハ欠席裁判ヲ爲スコトヲ得

第八十九條 數人共犯ノ判決ヲ爲ストキハ被告人中欠席シタル者アリト雖モ出廷シタル者ニ對シ其判決ヲ爲スコトヲ得

第九十條 主理ハ會議席ニ列シ意見書ノ趣旨ヲ説明スヘシ。會議ノ判決其意見ト合ハサルトキハ其旨ヲ記シタル書面ヲ判決書ニ添フルコトヲ得。其判決法律ニ違ヒ再議スヘキ理

由アリト認ムルトキハ之ヲ其判決ノ命令ヲ下シタル長官ニ具申ス可シ

第九十一條 判決書ハ主理左ノ條件ニ照シテ之ヲ作り判士長判士錄事ト共ニ署名捺印シ訴訟文書ヲ添ヘ其命令ヲ下シタル長官ニ具申ス可シ

一 判決ノ理由

二 有罪ノ判決書ニハ犯罪ノ證據及ヒ其罪ヲ罰ス可キ法律ノ正條

三 無罪ノ判決書ニハ被告人ノ死去セシコト若クハ人違ヒナリシコト若クハ被告事件トナラサルコト若クハ犯罪ノ證據備ラサルコト

四 免訴ノ判決書ニハ公訴期間免除ト爲リタルコト若クハ大赦アリタルコト若クハ確定裁判ヲ經タルコト若クハ法律ニ於テ其罪ヲ全免スルコト

五 管轄違ヒノ判決書ニハ其旨

六 私訴ノ裁判アリタルトキハ其旨

七 被告人ノ官位勳爵隊號職名氏名族籍年齡住所判決ノ年月日

第九十二條 長官左ニ記載シタル者ハ訴訟書類ヲ添ヘ海軍大臣ニ具申シ其他ハ裁判宣告ノ命令ヲ下ス可シ

一 死刑ニ該リタルトキ

二 佐官及ヒ同等軍人ノ重罪輕罪ノ刑ニ該リタルトキ

三 尉官及ヒ同等軍人ノ重罪ノ刑ニ該リタルトキ

●海軍治罪法

第九十三條 海軍大臣前條ノ具申ヲ受ケタルトキ又ハ高等軍法會議ノ判決將官及ヒ其同等軍人ノ重罪輕罪ノ刑ニ該リ若クハ前條ニ記載シタルモノニ該リタルモノハ意見書ヲ附シ上奏ス可シ。其裁可アリタルトキ高等軍法會議ノ判決ニ係ルモノハ裁判宣告ノ命令ヲ下シ他ノ軍法會議ノ判決ニ係ルモノハ長官ニ下付シ長官ヲシテ裁判宣告ノ命令ヲ下サシム可シ

第九十四條 臨戰合圍ノ地ニ於テハ司令官第九十二條ノ例ニ依ラス直ニ裁判宣告ノ命令ヲ下スコトヲ得

第九十五條 長官軍法會議ノ判決法律ニ違ヒタリト認ムルトキハ之ヲ再議セシメ直ニ裁判宣告ノ命令ヲ下ス權ヲキモノハ意見書ヲ附シテ海軍大臣ニ具申ス可シ

第九十六條 海軍大臣高等軍法會議若クハ長官ヨリ具申シタル判決法律ニ違ヒタリト認ムルトキハ之ヲ再議セシム

第九十七條 裁判宣告ノ命令アリタルトキハ判士長判士主理錄事列席シ被告人ヲ出廷セシメ判士長其宣告ヲ爲ス可シ。欠席裁判ノ宣告ハ被告人欠席ノ儘之ヲ爲ス可シ禁錮以上ノ刑ニ該リタル被告人呼出ニ應セサルトキモ亦同シ

第九十八條 禁錮以上ノ刑ニ該リタル被告人其宣告ヲ受ケテ逃走シ若クハ前條第二項ニ依リ欠席判決ノマ、宣告アリタルトキハ主理逮捕狀ヲ發ス可シ。逮捕狀執行ノ方法ハ勾引狀執行ノ例ニ從フ若シ其住所分明ナラサルトキハ第五十九條ノ例ニ依ル

第九十九條 被告人欠席ノマ、宣告ヲ爲シタルトキハ其宣告書ヲ軍法會議ノ門前ニ揭示シ其一通ヲ被告人ノ住所ニ送達ス可シ

第一百條 外國若クハ航海中ニ於テ司令官又ハ艦船長ハ輕罪ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル下士卒ニ戴罪服務ヲ命スルコトヲ得。戴罪服務ノ日數ハ刑期ニ算入セス

第七章 再審

第一百一條 海軍大臣軍法會議ニ於テ法律ノ罰セサル所爲ニ對シ刑ヲ宣告シ若クハ法律ニ定ムル所ノ刑ヨリ重キ刑ヲ宣告シ若クハ無罪ノ宣告ヲ爲ス可キニ免訴ノ宣告ヲ爲シタルコトアルヲ知リタルトキハ再審ヲ爲サシム可シ

第一百二條 軍法會議ノ宣告左ニ記載シタル條件ニ觸ル、モノナルトキハ主理及ヒ被告人ヨリ再審ノ申請ヲ爲スコトヲ得

- 一 人ヲ殺シタル罪ニ付刑ノ宣告アリタル後其殺サレタリト認メラレタル者犯罪後現ニ生存シ又ハ犯罪前既ニ死去シタル確證アリタルトキ
- 二 同一ノ事件ニ付共犯ニ非スシテ別ニ刑ノ宣告ヲ受ケタルモノアリタルトキ
- 三 公正ノ證書ヲ以テ當時犯罪ノ場所ニ在ラサルコトヲ證明シタルトキ
- 四 既ニ判決ヲ經タル事件ニ對シ再ヒ判決アリタルトキ
- 五 被告人ヲ陷害シタル罪ニ依リ刑ノ宣告ヲ受ケタルモノアリタルトキ
- 六 公正ノ證書ヲ以テ訴訟書類ニ偽造又ハ錯誤アルコトヲ證明シタルトキ

第三百三條 海軍大臣前條ニ記載シタル事實アルコトヲ知りタルトキハ再審ヲ爲サシム可シ。長官其事實ヲ發見シタルトキハ訴訟書類ニ意見書ヲ附シ海軍大臣ニ具申ス可シ

第三百四條 再審ノ申訴ハ刑ノ宣告ヲ爲シタル軍法會議ヲ管理スル長官ニ之ヲ爲ス可シ艦隊軍法會議高等軍法會議合圍地軍法會議ニ於テ刑ノ宣告ヲ受ケタルモノナルトキハ海軍大臣ニ其申訴ヲ爲ス可シ。主理其申訴ヲ爲ストキハ其理由書ニ原裁判宣告書ノ謄本及ヒ證據書類ヲ添フヘシ。被告人若クハ其親屬其申訴ヲ爲ストキハ其理由書ヲ主理ニ出シ主理意見書ヲ添フ可シ。長官再審ノ申訴ヲ受ケタルトキハ訴訟書類ニ意見書ヲ付シ之ヲ海軍大臣ニ具申ス可シ。海軍大臣再審ノ申訴若クハ具申ヲ受ケタルトキハ之ヲ再審セシム可シ

第三百五條 海軍大臣再審ノ命ヲ下シタルトキ刑ノ執行中ニ係ルモノハ其執行ヲ停止ス可シ

第三百六條 再審ヲ爲シタル事件前ニ上奏ヲ經タルモノナルトキハ其判決ヲ上奏シテ裁可ヲ請フ可シ

第八章 復權

第三百七條 復權ノ願ハ普通刑法第六十三條ニ定メタル期限ヲ經過シタル後刑ノ宣告ヲ受ケタル者ヨリ海軍大臣ニ之ヲ爲スコトヲ得。其復權願書ハ二通ヲ作り本人署名捺印シ左ニ記載シタル書類ヲ添ヘ郡區長ニ出シ郡區長願人ノ品行其他必要ノ調査ヲ爲シ地方長官ニ出シ其長官ハ之ニ意見書ヲ添ヘ海軍大臣ニ出ス可シ

一 裁判宣告書ノ謄本

二 主刑ノ滿期若クハ特赦若クハ滿期免除ト爲リタルコトヲ證明スル書類

三 假出獄及ヒ假リニ幽閉若クハ監視ヲ免セラレタルコトアルトキハ其證書

四 賠償ヲ辨濟シ若クハ義務ヲ免カレタル證書

五 過去現在ノ住所及ヒ生計ヲ記載シタル書類

第三百八條 海軍大臣復權ノ願ニ關スル書類ヲ受領シタルトキハ主理ヲシテ更ニ必要ノ調査ヲ爲サシメ意見書ヲ附シテ上奏ス可シ

第三百九條 復權ノ願裁可アリタルトキハ海軍大臣主理ヲシテ地方長官ヲ經テ裁可狀ヲ本人ニ傳達セシム可シ。主理ハ裁可狀ノ謄本ヲ刑ノ宣告ヲ爲シタル軍法會議ニ送致シ軍法會議ニ於テハ之ヲ裁判宣告書ニ記入ス可シ

第三百十條 復權ノ願弄却セラレタルトキハ海軍大臣願書ニ其旨ヲ記シタル書面ヲ附シ主理ヲシテ前條第一項ノ處分ヲ爲サシム可シ。復權ノ願弄却セラレタルトキハ普通刑法第六十三條ニ定メタル期限ノ半ヲ經過スルニアラサレハ更ニ其願ヲ爲スコトヲ得ス

第九章 特赦

第三百十一條 特赦ノ申請ハ刑ノ宣告ヲ爲シタル軍法會議ヲ管轄スル長官又ハ主理若クハ同獄官ヨリ犯人ノ情狀ヲ具シ海軍大臣ニ之ヲ爲スコトヲ得。主理其申請ヲ爲ストキハ裁判宣告ノ命令ヲ下シタル長官ニ其書面ヲ出ス可シ長官其書面ヲ受領シタルトキハ之ニ意見

書ヲ附シ海軍大臣ニ出ス可シ。司獄官其申請ヲ爲ストキハ裁判宣告ノ命令ヲ下シタル長官ニ其書面ヲ出ス可シ長官其書面ヲ受領シタルトキハ主理ノ意見書ヲ徴シ自己ノ意見書ヲ附シ海軍大臣ニ出ス可シ。艦隊軍法會議若クハ合圍地軍法會議ニ於テ裁判宣告ヲ受ケタル者ノ特赦ノ申請ハ主理ヨリ直チニ海軍大臣ニ之ヲ爲スコトヲ得

第一百十二條 海軍大臣前條ノ書類ヲ受領シタルトキハ意見書ヲ附シテ上奏ス可シ

第一百十三條 海軍大臣ハ刑ノ宣告アリタル後何時ニテモ特赦ノ上奏ヲ爲スコトヲ得

第一百十四條 特赦ノ申請アルモ死刑ヲ除クノ外刑ノ執行ヲ停止セス

第一百十五條 特赦ノ上奏裁可アリタルトキハ海軍大臣特赦狀ヲ其申請ヲ爲シタル諸官ニ下付シ本人ニ之ヲ傳達セシム可シ。主理ハ特赦ノ裁可アリタル旨ヲ裁判宣告書ニ記入ス可シ

實用刑事訴訟法典第二附錄畢

明治二十七年十一月廿六日印刷
 明治二十七年十一月廿九日發行
 明治三十年九月三十一日訂正増補第五版發行

編纂者 發行所 大賣捌 發行所

定價金四拾五錢

東京市麹町區華町十二番地 濶淵正氣
 東京市麹町區飯田町三丁目廿二番地 高橋篤行
 東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地 佐久間衡治
 東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地 株式會社 秀英舍工場
 東京市麹町區飯田町三丁目廿二番地 法典實習會
 東京市神田區表神保町一番地 八尾書店
 神田區裏神保町七番地 明法堂
 全 日本橋區通リ三丁目 丸善株式會社
 全 神田區一ツ橋通町七番地五號地 有斐閣書房

書ヲ附シ海軍大臣ニ出ス可シ。司獄官其申請ヲ爲ストキハ裁判宣告ノ命令ヲ下シタル長官ニ其書面ヲ出ス可シ長官其書面ヲ受領シタルトキハ主理ノ意見書ヲ徴シ自己ノ意見書ヲ附シ海軍大臣ニ出ス可シ。艦隊軍法會議若クハ合圍地軍法會議ニ於テ裁判宣告ヲ受ケタル者ノ特赦ノ申請ハ主理ヨリ直チニ海軍大臣ニ之ヲ爲スコトヲ得

第一百十二條 海軍大臣前條ノ書類ヲ受領シタルトキハ意見書ヲ附シテ上奏ス可シ

第一百十三條 海軍大臣ハ刑ノ宣告アリタル後何時ニテモ特赦ノ上奏ヲ爲スコトヲ得

第一百十四條 特赦ノ申請アルモ死刑ヲ除クノ外刑ノ執行ヲ停止セス

第一百十五條 特赦ノ上奏裁可アリタルトキハ海軍大臣特赦狀ヲ其申請ヲ爲シタル諸官ニ下付シ本人ニ之ヲ傳達セシム可シ。主理ハ特赦ノ裁可アリタル旨ヲ裁判宣告書ニ記入ス可シ

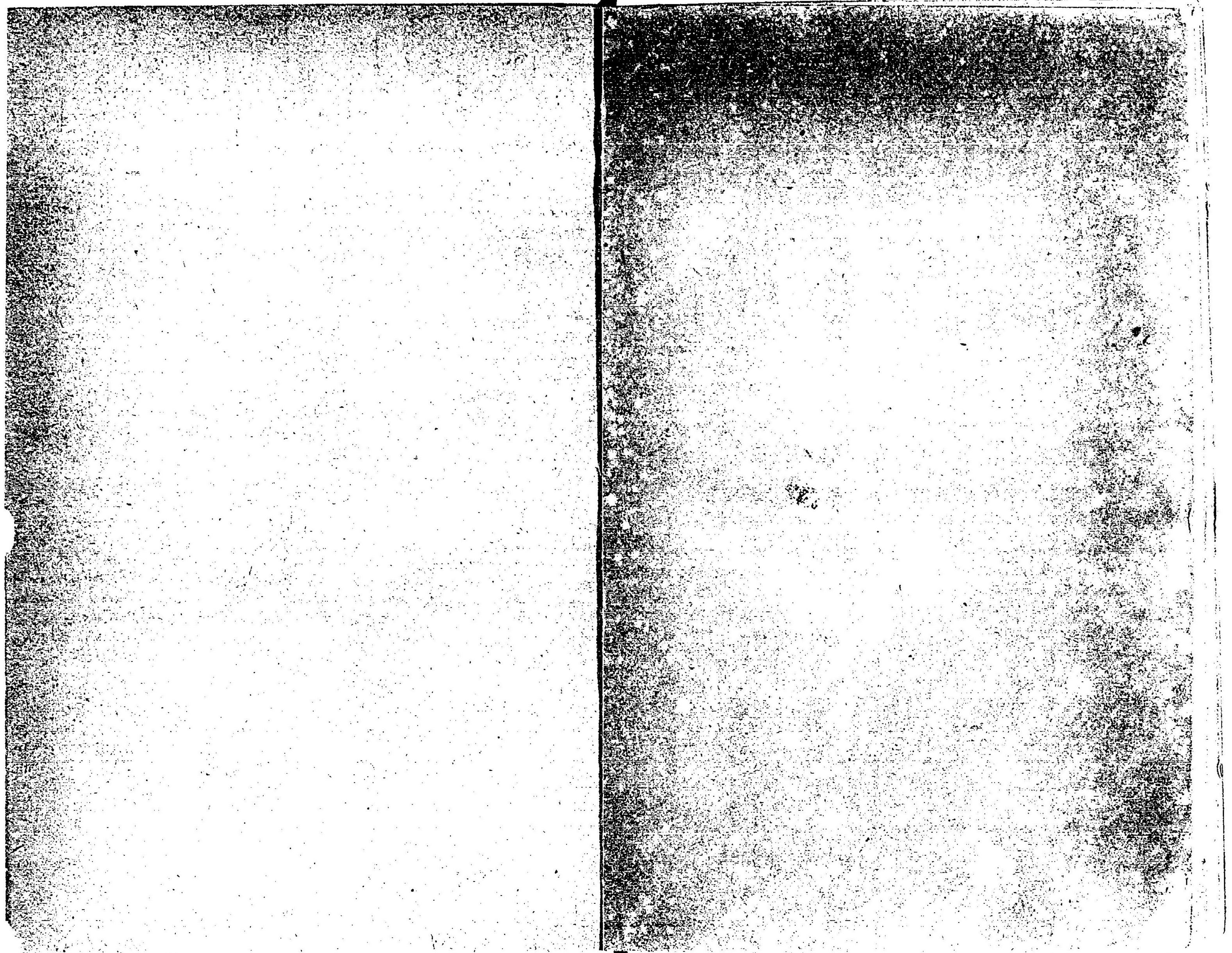
實用刑事訴訟法典第二附錄畢

明治二十七年十一月廿六日印刷
 明治二十七年十一月廿九日發行
 明治三十年九月三十一日訂正増補第五版發行

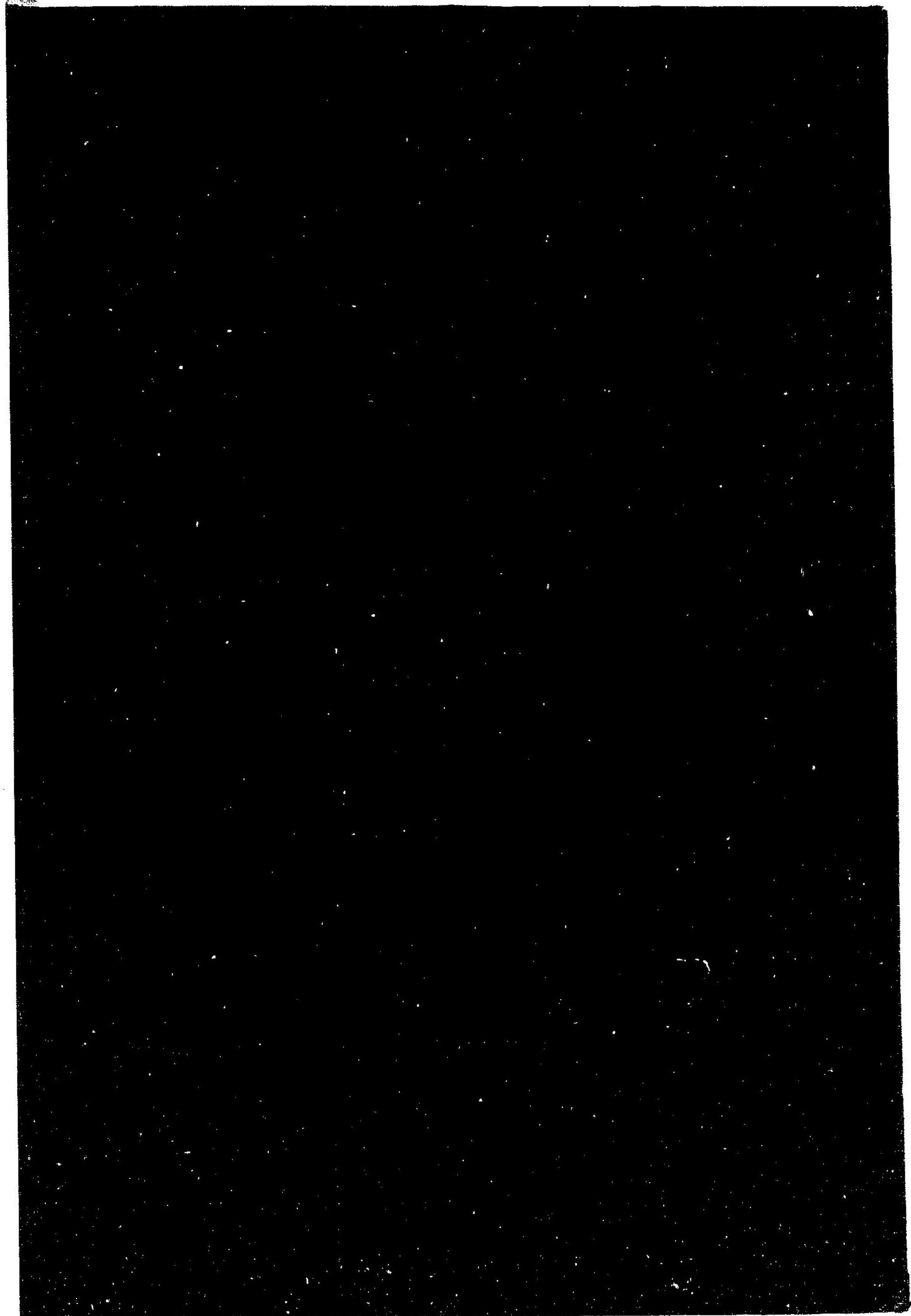
編纂者 發行所 大賣捌 發行所 印刷所 印刷者

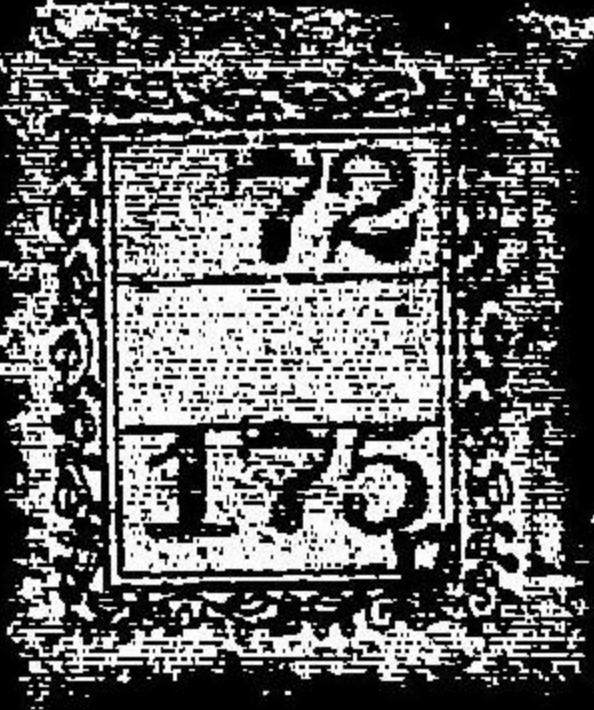
定價金四拾五錢

東京市麴町區畢町十二番地 氣行
 東京市麴町區飯田町三丁目廿二番地 正篤
 東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地 治行
 東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地 英舍工場
 東京市麴町區飯田町三丁目廿二番地 會社
 東京市神田區表神保町一番地 奎章會堂
 東京市神田區裏神保町七番地 尾書店
 日本橋區通リ三丁目 丸善株式會社
 神田區一ツ橋通町七番地五號地 有斐閣書房



72
175





036770-000-2

72-175口

实用刑事訴訟法典

(大審院判例法曹会決議諸法令对照)

溝淵 正氣/編

M30

BBS-0204



